



人と地球に「やさしく、あったかい」  
企業グループをめざして

ニッケグループ  
環境報告書

2010

## 経営の基本戦略が共通する6つの事業領域に再編して、 繊維事業にとどまらない多角的な事業で成長発展をめざしています

ニッケは1896年の創業以来、ウールの総合メーカーとして高い評価を得てきました。現在では繊維事業にとどまらない多角的な事業を展開し、ニッケグループを形成しています。2009年度からは経営の基本戦略が共通する6つの事業領域に再編するとともに、すべての事業を「本業」と位置づけて成長発展をめざしています。

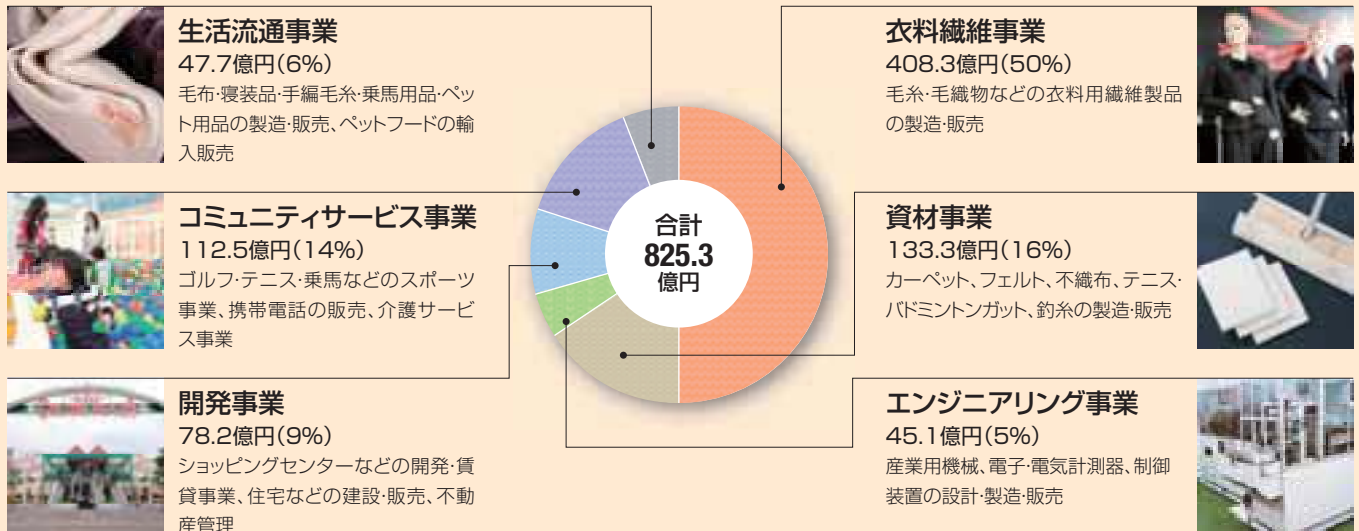
### 会社概要

通称社名	ニッケ
社名	日本毛織株式会社
所在地	大阪市中央区瓦町三丁目3番10号
設立	1896年(明治29年)12月3日
代表者	取締役社長 佐藤 光由
資本金	6,465百万円
売上高	連結825.3億円 単独331.0億円
従業員	連結4,119名 単独700名 ※2009年11月現在
連結グループ情報	連結グループ会社42社 ※2009年11月現在

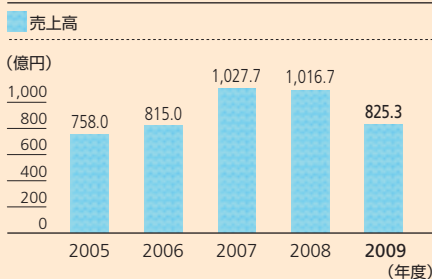
### 主な連結グループ会社 (50音順)

- 衣料繊維事業**  
アカツキ商事(株)、揖斐ウール(株)、金屋ニット(株)、江陰日毛紡績有限公司、佐藤産業(株)、大成毛織(株)、(株)中日毛織、青島日毛織物有限公司、青島日毛紡績有限公司、(株)ナカヒロ、日誠毛織(株)、尾州ウール(株)、弥富ウール(株) など15社
- 資材事業**  
アンビック(株)、江陰安碧克特種紡織品有限公司、(株)ゴーセン など5社
- エンジニアリング事業**  
(株)システム開発、(株)テクシオ、(株)ニッケ機械製作所 など5社
- 開発事業**  
(株)アルファニッケ、(株)ニッケコルトンサービス、ニッケ不動産(株) の3社
- コミュニティサービス事業**  
(株)ジーシーシー、(株)ニッケ・アミューズメント、(株)ニッケインドアテニス、(株)ニッケ・ケアサービス、(株)ニッケレジャーサービス など11社
- 生活流通事業**  
双洋貿易(株)、ニッケ商事(株)、ニッケペットケア(株) の3社

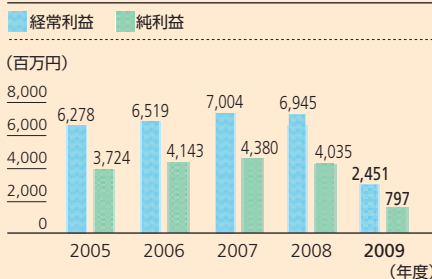
### ニッケグループの事業別売上構成比(2009年度)



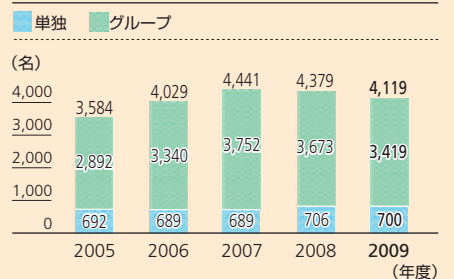
### 連結売上高



### 連結利益



### 従業員数



## 「環境報告書2010」の編集にあたって

本報告書は、ニッケグループの環境・社会活動について、2009年度の取り組みと実績、今後の計画を報告するものです。

報告書の発行は本年度で6回目となり、環境パフォーマンスデータについては国内の衣料繊維製造部門・資材製造部門とショッピングセンター部門について報告しています。今回の報告書では特筆すべきトピックスを載せた特集ページを設けました。冊子はダイジェスト版とし当社のホームページに詳細版を掲載しています。URL : <http://www.nikke.co.jp/csr/ecology.html>

### 報告対象組織

#### ● 環境パフォーマンスデータ

日本毛織株式会社

製造拠点3カ所：印南工場、一宮工場、岐阜工場

オフィス8カ所：本社、神戸本店、東京支社、北海道営業所、仙台営業所、名古屋営業所、広島営業所、九州営業所

ショッピングセンター2カ所：ニッケコルトンプラザ、ニッケパークタウン

#### 国内グループ会社(8社)

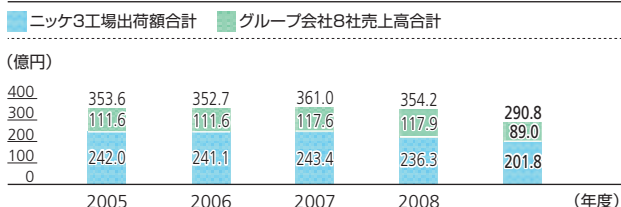
弥富ウール株式会社\*、尾州ウール株式会社、日誠毛織株式会社、揖斐ウール株式会社、大成毛織株式会社、金屋ニット株式会社、アンビック株式会社、株式会社コーゼン

連結対象組織における報告対象組織の補足率は約60%です。これは国内エネルギーデータをもとに、事業規模から推測したのですが、補足率の精度向上のため、今後、より広い範囲でエネルギーデータの収集に努めます。

\* 弥富ウール(株)は、2009年度に尾州ウール(株)に合併しました。

#### ● パフォーマンスデータにおける金額原単位の指標

##### 工場出荷額および報告対象グループ会社売上高



#### ● 環境マネジメントおよび環境保全活動の取り組み

ニッケグループとしての取り組みおよび各社の活動を報告しました。

#### ● 社会的取り組み・マネジメント

ニッケグループとしての取り組みを報告しました。

### 報告対象期間

2009年度(2008年12月1日~2009年11月30日)

### 期間中に発生した重要な変化

事業複合体としてのグループ経営をより強化するために、2009年度から本社機構と事業部を大幅に再編して業務を進めています。2009年度には、弥富ウール(株)を閉鎖し、尾州ウール(株)と合併しました。株主構成、製品・サービスなどの重要な変化はありません。

### 発行日、前回発行日、次回発行日

発行日：2010年2月25日

前回発行日：2009年2月26日 次回発行予定：2011年2月

### 準拠したガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」(2007年版)

### 作成部署・連絡先

ニッケ 研究開発センター 環境・知財管理室

大阪市中央区瓦町三丁目3番10号

Tel.06-6205-6658 Fax.06-6205-6653

### 主な企業情報と入手先

企業情報 会社案内、有価証券報告書、ニッケレポート(事業報告書)、IR資料、環境報告書

入手先 ニッケ 経営戦略センター 法務IR広報室  
Tel.06-6205-6600 Fax.06-6205-6684  
E-mail : webmaster@nikke.co.jp

### 企業情報のお問い合わせ先

企業情報の入手先と同じく「法務IR広報室」へお問い合わせください。ご意見・ご質問は、連絡先をお聞きした上で関係部署から返答いたします。(返答は後日になる場合もあります)



### 将来に関する予測・予想・計画について

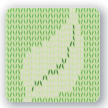
本報告書には、ニッケおよびニッケグループの将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。従って、将来の事業活動の結果や将来に惹起する事象が、本冊子に記載した予測・予想・計画と異なったものになる可能性があります。

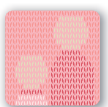
## Contents

トップメッセージ	3
マネジメント体制	4

### 特集 “人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”となるために

	1 製造拠点とショッピングセンターで各々の特性に合わせた環境保全活動を展開	5
	2 技術・技能の伝承を通じてニッケのものづくりを支える人材を育成	7

	<b>環境への取り組み</b>	
	環境経営への取り組み	9
	国内繊維事業における環境保全活動	12
	ショッピングセンター事業における環境保全活動	20

	<b>社会への取り組み</b>	
	製品責任	21
	社会貢献活動	22
	働きやすい職場づくり	23

	ニッケグループ各社の取り組み	25
	環境報告ガイドライン対照表／編集後記	32



## 美しい地球を守るため、 環境保全に取り組み、 信頼される企業をめざして

### 人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして

ニッケは1896年の創業以来、環境にやさしい天然素材であるウールを社会に提供してきました。そして、「人と地球にやさしく、あったかい企業グループ」であることを経営理念に掲げて、環境保全活動に取り組むとともに、人間家族や地域社会への貢献にも力を注いでいます。

地球は環境汚染に直面し、また原油をはじめとする資源の枯渇も近い将来に現実のものとなりそうです。私たちには美しい地球を次世代に引き継ぐ責任があります。そのためにニッケは1993年に「地球環境委員会」を設置して以来、環境保全に本格的に取り組んでいます。現在、ニッケグループは衣料繊維、資材、エンジニアリング、開発、コミュニティサービス、生活流通という6つの事業領域で拡大を続けています。この多様化した組織に対応するため、「ニッケグループ地球環境委員会」が全体を統括し、2009年度からは環境・知財管理室が中心となって、工場・事業場の環境施設の整備・保全に取り組んでいます。

### 環境保全・社会貢献に取り組み、 信頼されるニッケグループへ

環境保全活動の中でも最重要課題は、将来の地球環境に直結する「省エネルギー」「省資源」「廃棄物3R(Reduce・Reuse・Recycle)」です。また環境にやさしい商品・サービスの提供や、新しい環境技術の研究・開発、さらに生態系の保全、社会貢献活動にも注力するほか、ISO14001の認証取得など社員全員の意識向上にも努めてきました。

今後は環境技術をはじめとして、培った技術を次世代に伝承するとともに、優れた人材を育成し、社会から信頼され、期待さ

れる企業グループとしての持続的発展をめざします。

この環境・社会報告書は2009年度のニッケの環境への取り組みと社会的責任への取り組みについてまとめたものです。本報告書をご覧いただき、ニッケの取り組みをご理解いただくとともに、皆様から忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

2010年2月

ニッケグループ代表 取締役社長

佐藤光由

### 経営理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

- ウールで培った技術の追求と環境への配慮により、新しい価値を創造します。
- 心を込めて人間家族や地域社会に貢献し、たしかな生活文化を創造します。

### 経営方針

- 社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループを目指します。
- 企業価値の最大化を通して、顧客や株主との持続的な信頼関係を築きます。
- 研究開発を強化し、品質と感性・革新性に根ざしたNo.1の商品とサービスを提供します。
- 変化をチャンスと捉え、既存事業の改革と新規事業の開拓に挑戦します。
- 人材開発を重視し、各分野におけるプロフェッショナルとして行動します。



# マネジメント体制

## コーポレート・ガバナンス

ニッケは、経営の効率化、透明性を向上させ、ステークホルダーの期待に応えながら企業価値の増大を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本方針としています。

### コーポレート・ガバナンス体制

ニッケは、取締役会および監査役会で業務執行を監督・監査する「監査役設置会社」として、「経営監視の仕組み」と「最適な経営者を選定する仕組み」の構築に努めています。

2004年にはアドバイザーボード（社外有識者の会議体）を設置し、経営者の指名、報酬に関わる業務の確立と、ボードメンバーによる経営の監視およびアドバイスを取り入れる仕組みを導入しました。

また2006年には執行役員制度を導入し、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能の明確化と業務執行機能の強化を

図るとともに、取締役会をスリム化し、さらに社外取締役を加えた透明性のある経営を推進しています。さらに、業務執行機能の強化を図るために、執行役員、常勤監査役、各事業部門長およびグループ本社部門長などから構成されたグループ経営会議を開催しています。

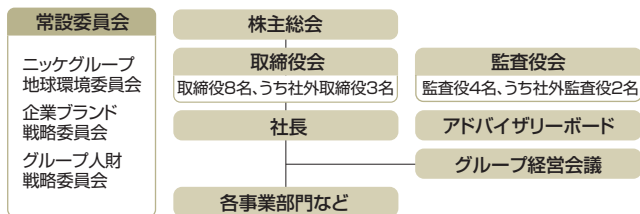
### 内部統制システムの構築

2008年12月1日から金融商品取引法に基づく「内部統制報告制度」の適用が開始されたのを受け、同日付で内部統制監査の専任部署として「内部監査室」を設置し、内部監査を開始しました。

監査の結果、ニッケグループの内部統制は、定められた規則やルールに則り「有効」に機能しており、「ニッケグループの財務計算に関する書類などの情報に誤りや虚偽の記載が生じにくい体制」が整備・運用されていることが確認できました。

今後も、内部統制監査を通じて、ニッケグループ全体の業務の改善と効率化に努めます。

### コーポレート・ガバナンス体制



## コンプライアンス

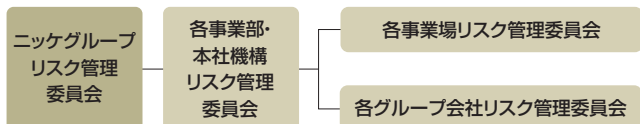
ニッケグループは、2008年12月に「ニッケグループ企業倫理委員会」を「ニッケグループリスク管理委員会」に改組しました。倫理・法令の徹底・遵守をはじめとして、企業を取り巻くあらゆるリスクに対応する組織体制としています。

### コンプライアンスならびに企業倫理の徹底

ニッケグループでは、2004年に「ニッケグループ企業倫理委員会」を設置しました。「企業倫理規範」と「企業行動基準」を制定するとともに、これらを記載した「企業倫理ハンドブック」を全社員に配布して徹底を図っています。また、2008年12月に改組した「ニッケグループリスク管理委員会」では、ニッケグループを取り巻くリスクを、「戦略リスク」「財務リスク」「オペレーショナルリスク」「ハザードリスク」に分類し、リスク管理上必要な重点テーマを設定して活動しています。

2009年度は、金融商品取引法に基づく「財務報告に関する行動基準」の改訂を実施し、監査部門の内部統制監査において実施状況を確認しています。また、2009年度においても、報告すべき法令違反や企業倫理問題は発生していません。

### ニッケグループリスク管理委員会体制



### 公益通報者の保護

ニッケグループでは、「企業倫理規範」に関わる事柄で、職場内だけでは解決が難しい場合や、上司に相談することが必ずしも適切でない事項について、社員が相談できる窓口を「企業倫理ハンドブック」をはじめ、社内イントラネットや携帯用カードに記載して周知しています。

窓口は2つのルートを設け、相談者のプライバシーを厳重に守る体制としています。2009年度の利用はありませんでした。

1

# 製造拠点とショッピングセンターで 各々の特性に合わせた 環境保全活動を展開



工場

## エネルギーを多く使う染色・仕上工程での省エネ活動を推進

ニッケの工場では、熱エネルギーの多くを、染色や洗浄、乾燥の工程で必要となるお湯を沸かす設備や乾燥させるために空気を温める設備に使用しています。

環境負荷の少ないエネルギーを使用することや、無駄を省いてエネルギーの使用量を減らすことで地球に「やさしく、あったかい」企業グループとなることをめざしています。

### 私たちの取り組み



岐阜工場  
施設課長  
吉村 朝生

#### 岐阜工場 ボイラ燃料を重油から天然ガスに転換し、CO<sub>2</sub>排出量を27%削減しました

CO<sub>2</sub>排出量削減のために、2009年1月、岐阜工場の重油ボイラ3基を廃止し、ガスボイラに更新しました。

ボイラ燃料をA重油から都市ガス(主成分:天然ガス)に変更することで、大気中へのCO<sub>2</sub>排出量を約27%削減できました。岐阜工場の環境対策として「地球環境にやさしい」

取り組みが一步進んだと考えます。

また重油を使用しないため、危険物として管理する必要があった屋外重油タンクを撤去した結果、火災のリスクが減り、重油の漏洩リスクもなくなり、防火管理、安全管理の面で大きく改善されました。



ボイラ更新に伴い安全祈願として実施した「火入れ式」の様子



一宮工場  
施設課長  
戸坂 孝市

#### 一宮工場 廃蒸気(フラッシュ蒸気)の回収装置を新設しました

省エネ対策として廃蒸気(フラッシュ蒸気)回収に取り組みました。生産機械で蒸気を使用すると発生するドレン(蒸気の凝縮水)を装置に回収する時に、ドレンの約6%が再び蒸発して回収することができませんでした。今回のシステムは、大気に排出されていた廃蒸気の熱エネルギーを活用し、温水に変えて

有効に利用するというものです。

この廃蒸気回収装置を取付けた結果、年間約770トンの蒸気を回収し有効活用することができました。省エネルギーが図れるとともに金額にして約300万円のコスト削減につながると予測しています。



廃蒸気回収装置



印南工場  
施設課長  
古西 豊

#### 印南工場 法規制を遵守して、化学物質を適切に管理しています

印南工場では染色工程、仕上工程で化学薬品を使用しています。使用する化学薬品の中には危険物や劇物に該当するものもあり、法令で取扱や保管方法などが厳しく規定されています。このため取扱作業者の教育、保管場所の整備、在庫管理、定期パトロール、漏洩時の対応訓練などを実施しています。

また、1919年に建設された当工場では、電気設備の変圧器の一部にPCBが微量混入しているものがあります。微量PCBは、変圧器の取替後、専用の場所で保管する必要があり、2009年度に新たな保管倉庫を建設しました。

今後も法令に適合した化学物質の管理を徹底していきます。



新設した危険物の保管倉庫



### ショッピングセンターで



## 施設の省エネとテナントから出る廃棄物処理に注力

ニッケは国内2カ所で大規模なショッピングセンターを運営しています。多くのお客様が来場するショッピングセンターは、地域の皆様にとっての憩いの場所を提供するだけでなく、環境にも配慮した施設であるべきだと考えて、省エネや廃棄物の削減に取り組んで、豊かな生活への貢献をめざしています。

### 私たちの取り組み



ニッケパークタウン  
施設課  
大岡 勝美

#### ニッケパークタウン 店舗前にドライミストを設置して、外気温度が4℃低下しました

2009年8月、東側のアウトモール店舗前（加古川駅寄り）にドライミストを導入しました。夏季のアウトモール店舗は非常に暑く、お客様にゆっくり買い物していただくためには空調を常にフル稼働させておく必要があります。このドライミストの導入後は外気温度を約4℃下げることができました。

ドライミストは夏季の暑さ対策やヒートアイランド現象の緩和、さらには地球温暖化の緩和にも貢献するシステムとして現在注目を集めています。体感的にも涼しく感じられ、立ち止まって霧に手を伸ばすお客様や子どもたちの光景がよく見られました。



アウトモール店舗前のドライミスト



ニッケコルトンプラザ  
施設課  
鵜飼 寿彦

#### ニッケコルトンプラザ テナントと協力して、廃棄物の分別を徹底しています

2009年5月のリニューアルオープンに伴って、飲食店舗が増えるため廃棄物量も増加が予想されました。そこで、廃棄物置き場を見直し、分別スペースを拡大。可燃ゴミに含まれる紙類を分別・リサイクルするなど、処分量の削減を進めています。

最大の課題は、テナントの意識改革です。

館内ゴミ置き場のリサイクル表示の統一化や説明POPの表示、毎月の店長会での説明などを通じて分別を呼びかけていくことで、徐々に意識に変化が現れてきています。今後は紙類・ハンガーなどのリサイクル率アップと、生ゴミ・発泡スチロールのリサイクルに取り組んでいきます。



廃棄物置き場でのリサイクル表示



## 原料から織物まで、 知識と問題解決のプロセスを学ぶ 「テクノスクール」を開講

技術や知識、技能の伝承は継続的に工場を運営していく上での基本です。ニッケでは、技術者の育成を目的として、約1年間の構想期間を経て、2008年12月1日に「テクノスクール」をキックオフしました。

テクノスクールがめざすのは、「技術者教育を通しての人づくり（技術に対する誇りと自信）」です。現場力強化のためのOJT（職場内訓練）と、知識・技能の習得のためのOFFJT（集合研修）、そして技術者が1年間取り組んできた成果を発表し、情報共有を図る「ニッケ技術発表会」。これらを継続的に運営する「テクノスクール委員会」を設置して技術の伝承

を図るとするのがテクノスクールの仕組みです。

キックオフからの約1年の間に、さまざまなOFFJTが開催されました。危険・トラブルを未然に防止するために重要になってくる「保全技能教育」では、各工程の主要設備に関する調整方法やノウハウを中心に、保全係長などを講師として、マンツーマン方式の教育を実施しました。また、「紡績・織物知識教育」では、一貫生産の優位性を堅持するために、紡績・織物製造のトータルな知識教育を、「初級編」「中級編」「エキスパート編」の3つのレベルに分け、そのうち2009年度は初級編と中級編を実施しました。

2010年1月には、初めての「ニッケ技術発表会」を開催しました。今後も、OJTとOFFJTを継続的に実施して、ニッケの技術者としてふさわしい人材の育成に注力していきます。

### 2009年度のテクノスクールOFFJT（集合研修）実施状況

#### 保全技能教育

	機械設備	実施月	対象者・期間
梳毛・紡績	梳毛設備	5月	設備ごとの一宮、岐阜工場から2～3名、2週間～2カ月
	紡績設備①	5・7月	
	紡績設備②	6・7月	
	燃糸設備	9月	
製織	織機	3月	印南工場から3名、3日間
仕上	基礎編：ベルト・ベアリング交換ほか	7月	一宮3名・印南2名の5名、1週間
	応用編：データーチェーン切断・交換ほか	2010年度実施予定	一宮・印南各1名の2名、2週間

#### 紡績・織物知識教育

	目的	内容
初級編	製造技術者としての基礎教育 各工程の概要・必要性を確実に理解させる	受講者9名、4月6～9日の4日間 合宿形式として梳毛・紡績・染色・製織・仕上・検査工程について工場課長が講師となり講義と工程見学を行った。
中級編	製造技術・知識の伝承 高度な専門性を持ち、主体的に職場の課題に取り組めるための知識を身に付ける	受講者13名、7月6～8日の3日間 合宿形式として梳毛・紡績・染色・製織・仕上工程のほか、試験・設計業務について生産部長と課長が講師となり講義と設計実習を行った。

特集

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”となるために

# 2 技術・技能の伝承を通じて ニッケのものづくりを 支える人材を育成





## テクノスクール講師の声

### 工程を広く学べる有意義な講義です

「紡績・織物知識教育」の仕上工程の講師を担当しました。受講者の皆さんは4日目の講義ということもあってやや疲れていましたが、熱心に講義に耳を傾けてくれました。今回が初めての開催ということもあり、講師の皆さんも講義の進め方について試行錯誤していたようです。特に講義時間が4時間と長丁場なので、講義と工場内見学を一式終えても時間が余ったという講師もいたと聞いています。準備段階での詰めが甘く、現場での作業実習などの内容を十分に検討すればよかったと反省する次第ですが、講義内容に関するアンケート結果をよく分析し、今後活かせればと思っています。

講義を終えて、紡績工程に従事している受講者の方から「仕上工程の建物の広さや機械の種類の多さに驚いた」という感想を聞き、川下の工程に対する理解が得られたことで、この講義の意義を改めて実感しました。今回得られた知見を今後の業務に活用してもらえることを期待しています。



印南工場 検査課長  
**川端 康仁**

## テクノスクール受講者の声

### 点から線へ、知識がつながってきました

ちょうど1年前に、新入社員研修で各工程の実習を経験しましたが、岐阜工場配属後約9カ月を経て、再度このような機会を得て、実習で身に付けた知識がつながりつつあることを実感しました。現状では散逸した「点」としての知識を蓄積していくことで精一杯ですが、将来的にそれらが「線」としてつながり、「立体」として形を成すような基盤づくりをしていきたいと思っています。



岐阜工場  
**高平 卓**

### 日常業務では出会えない人や物に触れました

今回初めてのテクノスクールということで、私は初級編に参加しました。印南工場や岐阜工場からも多くの皆さんが参加され、日常業務では触れ合うことのできない人や物に触れられたということが一番の収穫でした。



一宮工場  
**岩田 知子**

今後の業務においても、自工程以外の他の工程にも目を向けて取り組んでいきたいと思っています。



# 環境経営への取り組み

## 環境に関する基本姿勢

豊かな地球環境を次世代に引き継ぐことは、私たちに課せられた使命であり、責任です。  
ニッケグループは地球環境保全を企業経営における優先課題と位置づけています。

### ニッケグループ環境基本理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」  
企業グループとして、わたしたちは  
情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

ニッケグループは、この経営理念のもと、「環境への配慮と高い企業倫理により社会から信頼される企業グループを指向すること」を環境基本方針としています。とりわけ地球環境の保全を重要な課題と捉え、豊かで住みよい社会の実現に向けた企業活動に努めるため、3つの行動方針と4つの重点施策を定めています。そして、研究開発から製造、技術、販売、流通に至るあらゆる分野において、グループ全従業員が積極的に環境保全活動に取り組んでいきます。

### 行動方針

環境保全活動の推進	環境マネジメントシステムの確立	環境規制の遵守
CO <sub>2</sub> 排出量削減、省資源、環境負荷の低減にグループ全従業員で取り組みます。	ISO14001の認証をニッケ3事業所およびグループ会社9社が取得しています。この環境マネジメントシステムを活用することで、継続可能な環境改善に努めます。	環境関連法規および環境保全協定などを遵守するとともに、排出基準に自主規制値を設定し、厳しい規制管理を図ります。

### 重点施策

環境配慮に対するグループ内の意識徹底	CO <sub>2</sub> 排出量削減、省エネルギー、省資源、廃棄物3Rの推進	環境問題に対応した素材と生産技術の開発	環境関連情報の公開および地域社会との共生
--------------------	---	---------------------	----------------------

## 環境マネジメント

「ニッケグループ地球環境委員会」のもと各事業部・本社・神戸本店・東京支社に部門地球環境委員会を設けて、環境マネジメントシステムの継続的な運用によって、環境保全活動を推進しています。

### 環境マネジメントシステム

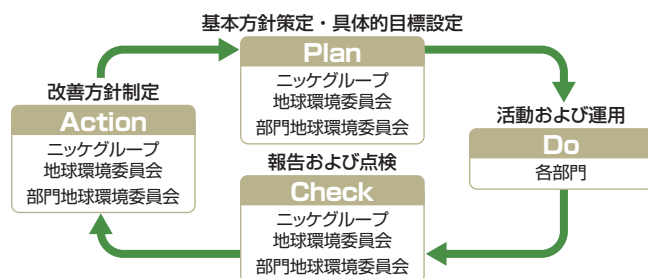
ニッケグループでは、グループ各社が同じ目標のもとで、環境保全活動に取り組む体制の構築をめざしています。そのために、「ニッケグループ地球環境委員会」を設けて基本方針と施策を決定するとともに、各事業部・本社・神戸本店・東京支社に設置した部門地球環境委員会で具体的な計画を立案して実行する体制としています。さらに、必要に応じてニッケ各工場およびグループ各社に同委員会を設置しています。

環境保全活動の推進にあたっては、右図のように“PDCAサイクル”を重視し、このサイクルを繰り返すことで活動の定着と強化を図っています。

### 環境マネジメント体制

ニッケグループ地球環境委員会		部門地球環境委員会
委員長	研究開発センター長	ニッケの各事業部および本社、神戸本店、東京支社に設置。 必要に応じてニッケ各工場およびグループ各社に設置。
事務局	環境・知財管理室	
常任委員	各事業部長、本社機構、神戸本店長、東京支社長	

### 環境保全活動推進フロー

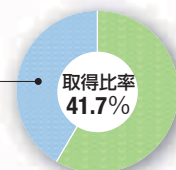


### ISO14001 認証取得状況

ニッケグループでは、工場およびグループ会社で、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001認証を取得しています。

### ニッケグループ全従業員に占めるISO14001 認証取得事業所従業員の割合

認証取得従業員数: 1,731名※  
グループ従業員数: 4,154名※  
※非連結グループ会社を含む



## 環境会計

環境会計を導入し、環境保全の取り組みの把握に努めています。環境対策投資とは公害防止や省エネ設備への投資であり、公害防止コストは公害防止設備の維持費や各種分析費など公害防止ランニングコストのことです。

今後は経済効果なども集計することで、効果的・効率的な環境経営の推進に役立てたいと考えています。

### 環境会計データ

(千円)

	2005	2006	2007	2008	2009
環境対策投資額	63,711	293,822	91,223	149,392	155,354
公害防止コスト	174,786	173,552	211,863	199,822	173,492
汚染負荷量賦課金	5,866	5,719	5,316	4,980	4,718

## 環境監査と結果

ISO14001認証取得事業所では、外部監査機関による審査を年1回受けています。2009年度はニッケ3工場合計で不適合1件、観察事項10件の指摘がありましたが、全体的には良好との評価を受けています。

またニッケ3工場で合計81名の内部監査員があり、年1回、定期的に内部監査を実施しています。2009年度は不適合8件、観察事項45件が報告されました。

これら監査の結果については、マネジメントレビューで対策内容を確認・決定して、これに基づきマニュアルや規定書を改訂する場合もあります。

## 環境リスク管理体制の整備

ニッケでは、環境マネジメントシステムに基づき、環境に関する緊急事態として、汚水の流出、薬品・油剤の流出、PCBの流出、毒劇物の盗難、火災の発生、都市ガスの漏れなどを想定しており、工場ごとにリスクを規定しています。

緊急時の対応手順は作業標準などに規定し、社員に徹底するとともに、定期的な訓練を実施しています。



PCB漏洩訓練

## 環境影響の監視・測定

ニッケの3工場では、ボイラや排水処理設備など環境に影響を及ぼす設備について、環境測定機器の定期校正、ボイラ排ガスの測定、排水の分析などの日常点検および定期点検を実施しています。またニッケ3工場および尾州ウール(株)では、所在する地域の排水水質規制を上まわる自主規制値を設定し、厳しく管理しています。

2009年度は、中部のグループ会社事業所周辺にお住まいの方から、生産機械から発生する振動への苦情がありました。機械に防振材を設置したり、夜の時間帯に一部の機械を停止するなどの対応策を検討しています。なお各事業所では、騒音などを定期的に測定しています。騒音が心配される場合は吸音材や遮音材を貼り付け、周辺的生活環境の保全に努めています。

## 環境教育

全社員を対象として毎年、環境教育を実施しています。

たとえばニッケ3工場では、環境方針の周知を図るとともに、環境マニュアルや環境に関する作業標準の教育などを実施しています。この環境教育は、各作業が有する著しい環境への影響、それを改善した場合の環境上の利点、環境マネジメントシステムの運用にあたっての役割と責任、作業標準から逸脱した場合に予想される結果などを啓蒙する機会にもなっています。

## 環境コミュニケーション

ニッケ印南工場では、地域の皆様との相互理解を深めるために、毎年2回、地域連絡会を開催しています。この連絡会には周辺6町内会の代表者にお越しいただき、工場や会社の状況を報告するとともにご要望を伺うほか、工場内を見学していただく場合もあります。

また、兵庫県、加古川市とニッケ印南工場のほか8社の企業とで環境保全協定を締結しています。毎年1回、企業の事業所周辺住民の代表の方などを交えて協議会を開催し、各事業所の環境情報を報告しています。



印南工場地域連絡会



# 環境経営の取り組み

## 環境マネジメント

### ISO14001 認証取得状況(詳細)

ニッケグループでは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001 認証を、以下の工場およびグループ会社で取得しています。

2009年度にISO14001 を認証取得したグループ会社はありません。

### ISO14001 認証取得事業所一覧(2009年11月末時点)

	登録年月	登録番号
印南工場	2000年11月	JMAQA-E156
アカツキ商事(株)	2001年 9月	JSAE419
岐阜工場	2001年10月	JMAQA-E234
アンビック(株)	2001年11月	JQA-EM1898
佐藤産業(株)	2001年11月	JEO129C
(株)ナカヒロ	2002年 6月	E465
上海高織製紐有限公司	2004年 3月	01 104 031654
(株)ニッケ機械製作所	2004年11月	162023
(株)テクシオ*	2005年 2月	EC04J0460
(株)ゴーセン	2005年 4月	JQA-EM4701
一宮工場	2007年12月	JMAQA-E724
青島日毛紡織有限公司	2008年12月	U06608E0220R0S

※2009年12月1日、エンジニアリング事業の再編に伴い、(株)ニッケ機械製作所の一部門と(株)テクシオ、(株)システム開発は新会社(株)ニッケテクノシステムとなりました。(株)ニッケテクノシステムでは、まだISO14001 を認証取得していません。

### 環境に関する規制の遵守状況

2009年度においても、環境に関して官公庁から指導および罰則を受けておりません。

なお、過去3年間も同様に違反、罰則、訴訟はありません。

### 環境保全活動のあゆみ

1993	●「地球環境委員会」を設置
1997	●ビジネスユニフォームでの「エコマーク」第1号取得 ●PETボトルリサイクル繊維を使用した「エコロジア企画」製品を発売開始
1998	●ウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築
1999	●「環境自主行動計画」を策定 ●「地球環境保全中期計画」を策定開始
2000	●印南工場でISO14001 を認証取得
2001	●岐阜工場でISO14001 を認証取得 ●アンビック(株)でISO14001 を認証取得 ●アカツキ商事(株)でISO14001 を認証取得 ●佐藤産業(株)でISO14001 を認証取得
2002	●「グリーン購入取り組み基準」を策定 ●(株)ナカヒロでISO14001 を認証取得
2004	●(株)ニッケ機械製作所でISO14001 を認証取得 ●上海高織製紐有限公司でISO14001 を認証取得
2005	●環境報告書発行開始 ●(株)テクシオでISO14001 を認証取得 ●(株)ゴーセンでISO14001 を認証取得
2007	●一宮工場でISO14001 を認証取得
2008	●青島日毛紡織有限公司でISO14001 を認証取得



# 国内繊維事業における環境保全活動

## 2009年度実績と中期計画

ニッケグループは、環境保全を確実に推進するために、2008年12月に「環境保全中期計画(2009～2011年度)」を策定し、その達成に向けてグループ全社が一丸となって各種施策に取り組んでいます。

### 2009年度の目標と実績、環境保全中期計画目標

目的	2009年度の目標	2009年度の実績	自己評価	中期計画の目標(2011年度)	報告ページ
省エネルギー	工場出荷額当たり原単位 2008年度比 <b>99.0%以下</b>	工場出荷額当たり原単位 2008年度比 <b>94.9%</b>	🚫🚫🚫	工場出荷額当たり原単位 2008年度比 <b>97.0%以下</b>	▶ P.13~14
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	工場出荷額当たり原単位 2008年度比 <b>99.0%以下</b>	工場出荷額当たり原単位 2008年度比 <b>93.2%</b>	🚫🚫🚫	工場出荷額当たり原単位 2008年度比 <b>97.0%以下</b>	▶ P.13~14
廃棄物最終処分量の削減	工場出荷額当たり原単位 2008年度比 <b>99.0%以下</b>	工場出荷額当たり原単位 2008年度比 <b>80.2%</b>	🚫🚫🚫	工場出荷額当たり原単位 2008年度比 <b>97.0%以下</b>	▶ P.13~14
PRTR法対象物質 使用量の削減 <small>※ 右記の年度は、行政への報告 集計期間(4月～翌年3月)に対応</small>	工場出荷額当たり原単位 2007年度比 <b>99.0%以下</b>	工場出荷額当たり原単位 2007年度比 <b>88.0%</b>	🚫🚫🚫	工場出荷額当たり原単位 2007年度比 <b>97.0%以下</b>	▶ P.15~16
グリーン購入の促進 <small>※ ニッケ3工場および 本社・東京支社での取り組み</small>	グリーン購入適合品比率 <b>95.0%以上</b>	グリーン購入適合品比率 <b>93.0%</b>	❌	グリーン購入適合品比率 毎年度 <b>95.0%以上</b>	▶ P.19

自己評価の基準    🚫🚫🚫 目標を十分に上まわって達成した    🚫🚫🚫 目標を達成した    🚫🚫🚫 目標は達成できなかったが目標に近づいた    ❌ 目標に向けた改善ができなかった

## 環境負荷の全体像

ニッケグループでは、原材料やエネルギーなどの投入(インプット)、CO<sub>2</sub>や廃棄物などの排出(アウトプット)を把握し、可能な限り環境負荷を低減するように努めています。

### INPUT



### OUTPUT

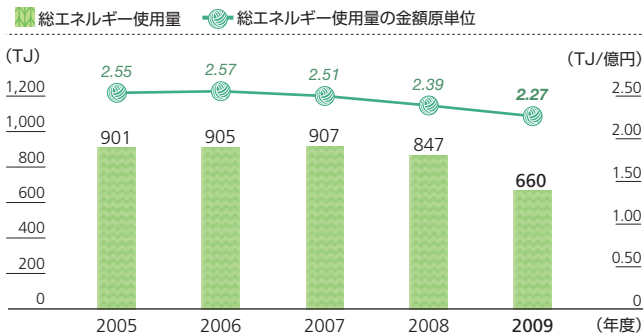


# 国内繊維事業における環境保全活動

## 地球温暖化防止の取り組み

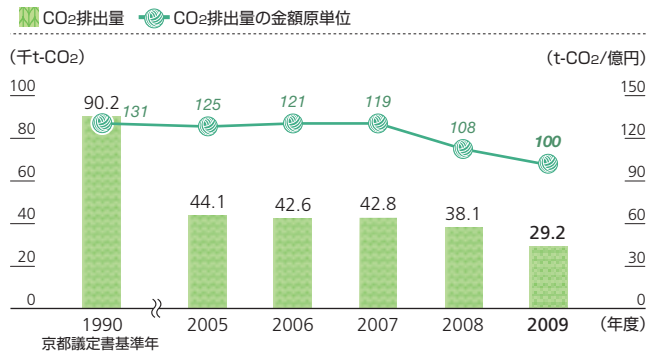
省エネ型生産設備の活用などの諸施策を実行し、エネルギー原単位およびCO<sub>2</sub>排出量原単位の改善に取り組みました。今後は、省エネ型設備の積極的な導入や工程管理条件の見直しなどに取り組んでいきます。

### 総エネルギー使用量と原単位



総エネルギー使用量原単位は、「2008年度比99.0%以下」の目標に対して、実績は「94.9%」となり目標を達成しました。生産量と売上が大幅に減少したにもかかわらず、省エネ機器の導入や生産設備の効率的な運転を推進したことが、目標達成の主な要因です。

### CO<sub>2</sub>排出量と原単位

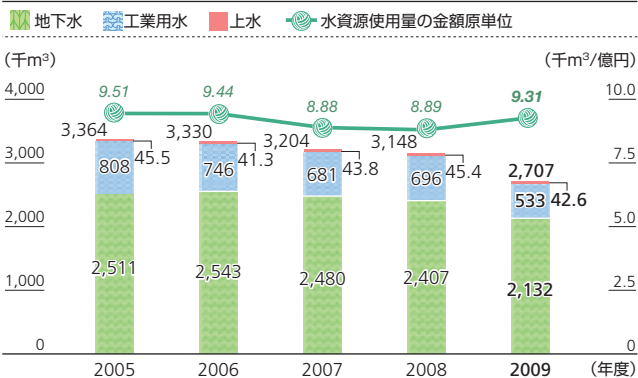


CO<sub>2</sub>排出量原単位は、「2008年度比99.0%以下」の目標に対して、実績は「93.2%」と目標を達成しました。エネルギー使用量が減少したことや、ボイラ燃料の天然ガスへの転換によりCO<sub>2</sub>排出量が大幅に減少したことが、目標達成の主な要因です。

## 省資源・リサイクルの取り組み

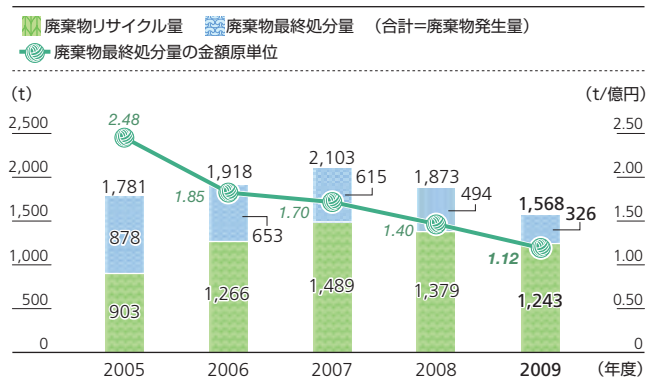
廃棄物で最も多くの割合を占める脱水汚泥を、セメント原料としてリサイクルする仕組みをさらに推進しました。今後、脱水汚泥そのものの発生量を抑制する仕組みの検討や、廃プラスチックなどのリサイクル率向上に取り組めます。

### 水資源使用量と原単位



使用する水資源には上水道・工業用水道・地下水があります。水資源が持つ水質や水温などの特性に合った用途で使用するとともに、節水や循環利用などによって水資源使用量の削減に努めています。

### 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量と原単位



最も多い廃棄物である脱水汚泥の全量リサイクル化を完了し、最終処分量原単位は目標を大幅に達成できました。今後は、廃プラスチックなどのリサイクル率向上の取り組みを強化します。

## 地球温暖化防止の取り組み

### 省エネルギー活動の推進

2009年度は生産量、売上高とも大幅に減少したにもかかわらず、各事業所で省エネルギー対策に取り組んだ結果、エネルギー原単位を前年度比5.1%削減することができました。エネルギー使用量は前年度比22%減少しています。

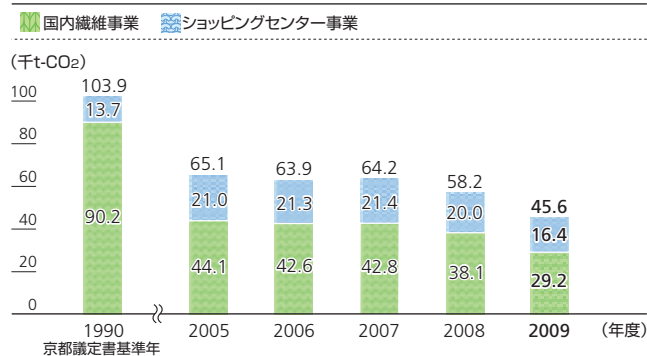
熱エネルギーを削減するために、廃蒸気回収装置の導入や、染色・洗浄・乾燥工程での蒸気使用設備の保温材改修などにより熱損失を低減しました。電気エネルギーについては空調機や照明器具を効率の高い機種へ更新、生産設備にはインバータを取り付けるなどして、効率のよい電気の使用に努めました。

また地道な取り組みとして、照明器具に紐スイッチを取り付けたりと、部屋の出入口にはカーテンを設置したりして少しでもエネルギーの無駄を省くようにしました。社員の省エネ意識を高めるためのPRも積極的に実施しました。

### 温室効果ガスの排出量削減

2009年度は、省エネルギー対策や天然ガスへの燃料転換などにより国内繊維事業のCO<sub>2</sub>排出量原単位は前年度比6.8%削減することができました。CO<sub>2</sub>排出量は、京都議定書に定める基準年1990年と比べて国内繊維事業では67.6%減、ショッピングセンター事業を加えると56.1%減となりました。

### CO<sub>2</sub>排出量 (国内繊維事業とショッピングセンター事業の合計)



### 輸送でのCO<sub>2</sub>排出量の削減

ニッケグループでは工場と工場の間、工場と倉庫の間の輸送効率を向上させるため、出荷される製品や原材料の積載量、輸送ルートについて見直しました。これにより工場間を往復するトラックの便数が減り、総走行距離が減少しました。

また中間製品は、これまで運搬台車ごとトラックに積み込んで運んでいたのを箱詰めにして積むことで、トラック1台あたりの積載量を増やしました。工場敷地内においては出荷用トラックだけでなく、資材搬入業者、工事業者などすべての車にアイドリングストップを呼びかけています。

## 省資源・リサイクルの取り組み

### 総物質投入量の低減

繊維製造事業の主な原材料には、ウールを中心とした天然繊維、ポリエステルを中心とした合成繊維、染料・薬剤があります。これら原材料の投入量を低減させるために、製造工程では歩留まりを高く維持することや不良率低減に継続的に取り組んでいます。

### 水資源使用量の削減

2009年度の水資源使用量は14%減りましたが、原単位では4.7%増加しました。これは、繊維製造工場では生産量が減少しても一定量の冷却水、加湿用の空調用水が必要であり、生産量に比例して水使用量を減らすことができないためです。

今後は染色・洗浄工程での節水対策の推進、空調用水および冷却水の循環利用の向上などで、水資源使用量の削減に努めます。

### 物質の循環利用

製造過程で発生する篠くずや短い毛などの副産品を、紡毛原料としてほぼ100%再利用するシステムが確立しています。

また、セーターや手編み糸などを包装する包装材の使用量は年間6トン弱で、これら容器包装材は日本容器包装リサイクル協会に依頼して、リサイクル(再商品化)しています。

### 廃棄物の削減

廃棄物最終処分量原単位は「2008年度比99.0%以下」の目標に対して、実績は「80.2%」と大幅に改善できました。廃棄物のおよそ半分を占める脱水汚泥の全量リサイクル化が完了し、次に多い廃プラスチックは、サーマルリサイクル(熱回収)や固形燃料化(ボイラ燃料)によりリサイクルを推進中です。

さらに廃棄物の分別を徹底することにより、リサイクル率向上をめざします。

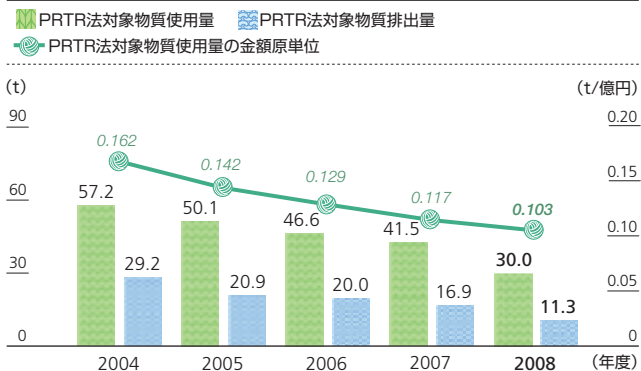
# 国内繊維事業における環境保全活動

## 化学物質の削減と管理

PRTR法※対象物質の使用量が多い薬剤について、対象物質を全く含有しない物質への切り替えをほぼ終了しました。今後は、さらに薬剤などの調査・試験を進め、少量使用している物質においても切り替えを進めていきます。

※PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。

### PRTR法対象物質の使用量・排出量・使用量原単位※



※PRTR法の届け出については、事業者は個別事業所ごとに化学物質の排出量・移動量を把握し、繊維産業においては都道府県経由で経済産業大臣に届け出ています。その集計期間は4月から翌年3月までと定められており、上記グラフの年度も、この集計期間に準じているためニッケの報告期間とは異なります。

PRTR法対象物質を含有する化学物質の中で、比較的使用量が多いものから優先的に、PRTR法対象物質を全く含有しないものに切り替えました。その結果、目標を達成することができました。

### 旧弥富工場跡地での土壌汚染に関する自主調査

ニッケの旧弥富工場跡地（愛知県弥富市）において、土壌汚染に係る自主検査を実施したところ、137地点のうち77地点から、指定基準を超過する特定有害物質が検出されました。汚染が判明した範囲については応急の被覆措置を講じたのち、愛知県の指導を受けながら指定基準に適合しない箇所の土壌については掘削除去を実施しました。地下水を調査した結果、指定基準（地下水基準）に適合していました。今回の調査地では特定有害物質の使用等の履歴はなかったため、汚染の原因は不明です。

この詳細は、ニッケグループホームページでご報告しています。



汚染土壌の搬出

## 大気や水などの汚染防止

大気汚染や水質汚濁、騒音などの公害対策については、特に周辺住民の方々へご迷惑をおかけしないように、公害防止設備の定期保全を確実に実施し、排ガスや水質の定期分析および管理を継続しています。

### 大気汚染物質の削減

SOx・NOx・ばいじんはボイラの排ガスに含まれるもので、特にSOxの排出はボイラ燃料に起因します。ニッケ印南工場と一宮工場、アンピック(株)に加え、2009年度はニッケ岐阜工場と尾州ウール(株)がボイラ燃料を重油から天然ガスに転換し、SOx排出量をゼロにしました。

またNOx・ばいじんは「大気汚染防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を十分に下まわるよう管理しています。

### 排水の管理

工場排水に含まれるCOD負荷・BOD負荷・SS負荷は、自社の排水処理装置または公共の下水処理場でこれら負荷量を減少させた上で、河川などの公共水域に放流しています。

各工場では定期保全の確実な実施に加え、日常的な管理運用、上乘せ排水基準の設定、排水水質の定期分析などを通じて、「水質汚濁防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を下まわるように管理しています。



## 化学物質の削減と管理

### PRTR法対象物質の使用量削減

PRTR法対象物質の使用量原単位は、「2007年度比97.0%以下」とした目標に対して、実績は「88.0%」と目標を大幅に達成しました。

今後も、ニッケ3工場では、PRTR法対象物質を含有する化学物質に対して、対象物質を全く含有しないものへの切り替えを進めていきます。またアンビック(株)では、使用しているPRTR法対象物質(トルエン)を全廃する取り組みを進めています。

### PCB使用機器廃棄物の管理

ニッケグループでは、国の全額出資によって設立された特殊会社「日本環境安全事業株式会社」に対して、グループ全体で70式のPCB使用機器廃棄物を処理登録し、2009年度はそのうちの

35式を処理。残りの35式については処理順を待っている状況です。処理が完了するまでは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則」に定められている「特別管理産業廃棄物保管基準」に従って安全に保管を続けます。

微量PCB使用電気機器であるPCB安定器や微量PCB検出変圧器などについては、国の処理方針が決定され次第、処理計画を策定し適正に処理する予定です。これらについても処理が完了するまで「特別管理産業廃棄物保管基準」に従って安全に保管を続けます。

### ダイオキシン類について

ニッケグループでは、ダイオキシン類対策特別措置法で定められた特定施設は設置していません。

## 大気や水などの汚染防止

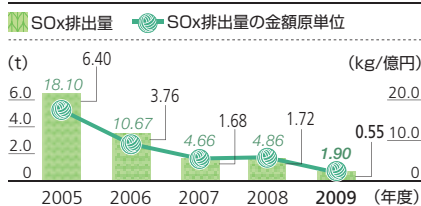
### 大気汚染物質の削減(データ)

2009年度は、ニッケ岐阜工場と尾州ウール(株)がボイラ燃料を重油から天然ガスに転換し、SOx排出量をゼロにしたため、SOx

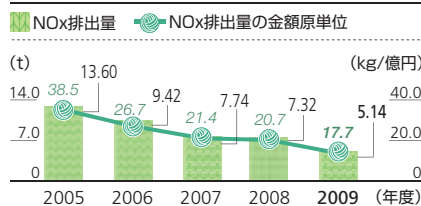
排出量は2008年度比39.1%と大幅に削減できました。

NOx、ばいじんも前年度に比べて大幅に削減できました。

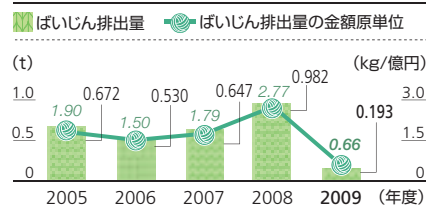
#### SOx排出量と原単位



#### NOxの排出量と原単位



#### ばいじん排出量と原単位

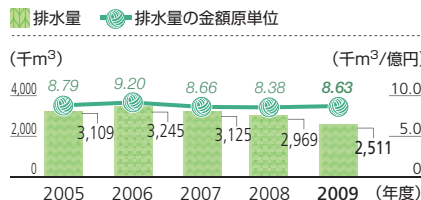


### 排水の管理(データ)

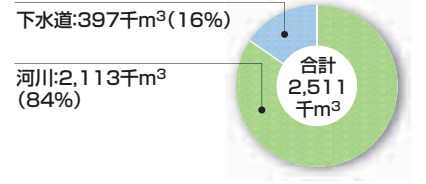
景気低迷による生産量の低下により排水量やCOD、BOD、SSの負荷量は大きく減少しました。

しかし、生産ロットが小さくなったため、排水量、BOD、SSの原単位は高くなりました。

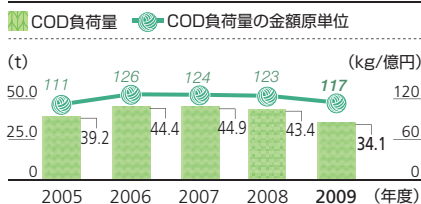
#### 排水量と原単位



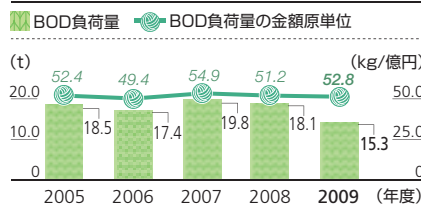
#### 排水の排出先別内訳(2009年度)



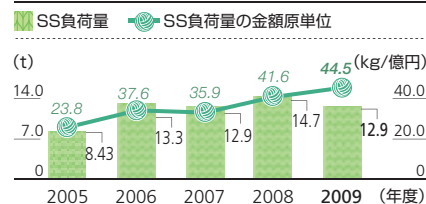
#### COD負荷量と原単位



#### BOD負荷量と原単位



#### SS負荷量と原単位



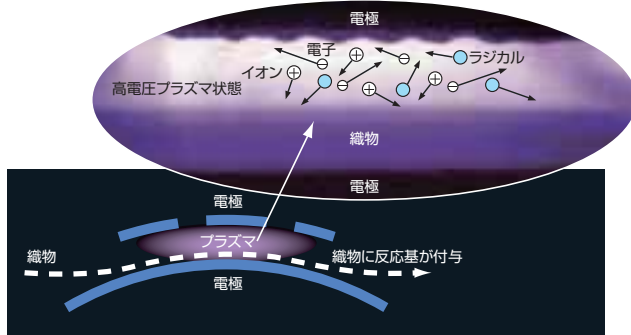
## 環境に配慮した製品

ニッケグループは、人と地球にやさしい素材であるウールを主原料としたさまざまな製品を製造・販売するとともに、環境に配慮した素材の開発、再生繊維の製造、衣料品リサイクルの推進などに取り組んでいます。

### PLASMAFINE CLEAN 繊維にも環境にも配慮したエコロジー技術

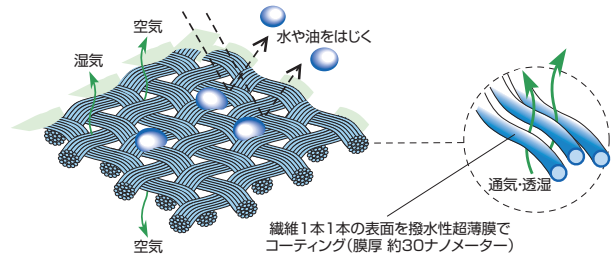
#### 優れた防汚性と飛躍的な耐久性を実現したニッケの<大気圧プラズマ>技術(特許出願中)

繊維表面がナノレベルで均一に活性化され反応基が付与されることで、撥水撥油剤が均一・強固に反応。



#### ウールの撥油性を飛躍的に高めた、新・防汚素材プラズマファイン[クリーン]

ニッケは<大気圧プラズマ>技術をナノレベルで撥水・撥油素材に応用。自然に近い状態を保ちながら、撥水撥油剤を羊毛繊維1本1本の表面に均一かつ強固に分子結合させることで30ナノメートル以下の薄膜を形成。ナチュラルな風合いと表面感、さらに通気性を損なうことなく、耐久性に優れた新・防汚素材が誕生しました。



### WellWarm

### 快適性を確保したウォームビズ対応素材

体内から常時発散される水蒸気と反応することにより生じる吸着熱をさらに向上させたウール素材が、ニッケのナノ技術で生まれました。ウール繊維に親水性化合物をナノレベルで結合※、分子構造そのものを変化させ、吸湿&発熱効果を高めた、軽くて温かくムレにくい、新・快適素材です。 ※特許 第4319568号 取得

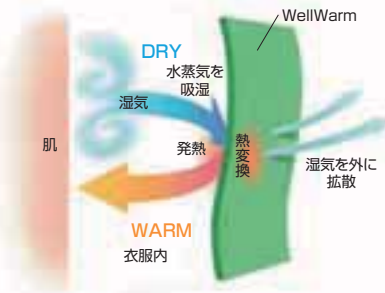
#### [WellWarm]の特長

##### 発熱効果

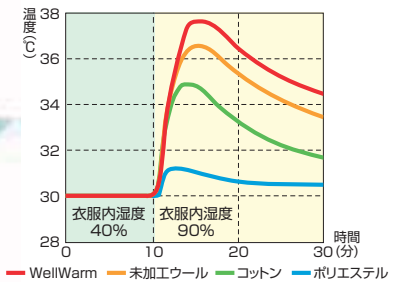
- 着用した時から衣服内全体の温度が上昇、快適な発熱効果を発揮します。ポリエステルに比べ約6℃、綿では3℃、未加工ウールに比べても1℃以上の温度差が得られます。(右図参照)
- 余分な湿気を外に放出するため衣服内はいつもドライ。ムれたり、汗冷えすることはありません。
- 長時間の着用にも、繰り返しの洗濯にも、発熱性能は低下しません。

##### 吸湿効果

[WellWarm] DRY & WARM のメカニズム



吸湿時の発熱データ(30℃40%rh→90%rh)



## 環境に配慮した製品

### 再生繊維を用いた「エコロジア企画」

ニッケと帝人(株)、日清紡績(株)の3社は、共同でトライアングルプロジェクトを構築し、その企画のひとつとして、1997年に使用済みPETボトルを繊維に再生し使用する「エコロジア企画」を立ち上げました。

これは、ゴミを減らすばかりではなく、合成繊維の主原料である石油の消費抑制にも役立つ地球にやさしい環境保全活動のひとつです。ニッケグループでは、再生されたポリエステル繊維とウールを混紡し、ユニフォームなどの製品へと加工して、再び社会へ送り出しています。

#### 「エコロジア企画」の仕組み



### 「エコマーク」取得商品

エコマークは、生産から廃棄にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた製品・サービスに付けられる環境ラベルです。マークの使用については、(財)日本環境協会エコマーク事務局が管理しています。

商品類型ごとに設定されている厳しい認定基準を満たした商品のみエコマーク表示が許諾され、ニッケのエコマーク取得商品には、学生服用生地、ビジネスユニフォーム用生地、毛布などがあります。

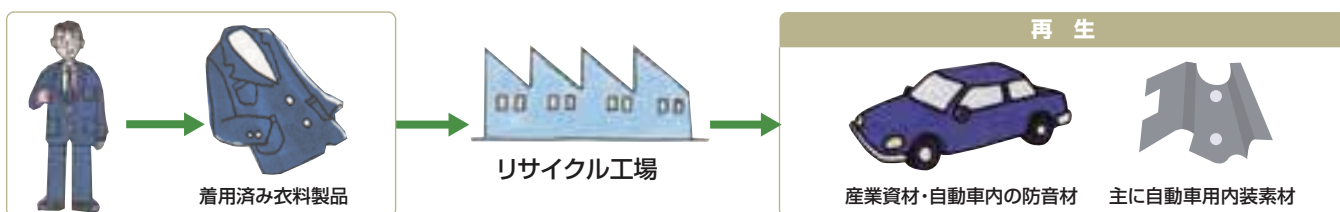
### 「エコネットワーク」製品リサイクルシステム

限りある資源を大切に使い地球環境を保全することは、現代社会を生きる私たちに課せられた義務であり責任です。繊維業界においても、製品回収・再生に向けた意識が高まってきています。

素材のリサイクルによって、地球環境への負荷を減らすため、ニッケと(株)ダイドーリミテッド、大東紡績(株)の3社は、1998年に共同でウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築しました。

「エコネットワーク」の回収製品は、ウール100%と、ウールと

#### 「エコネットワーク」の仕組み



他繊維の複合素材による衣料製品(メンズスーツなどの一般衣料、スクールユニフォーム、ビジネスユニフォームなど)を対象としています。

「エコネットワーク」会員からの着用済み衣料は、専用袋で指定のリサイクル工場へ回収しています。これらの回収製品を産業資材などとして再生し利用することで、原材料の節減と廃棄物の減量を両立します。



# 国内繊維事業における環境保全活動

## グリーン購入の取り組み

ニッケは1998年に「グリーン購入ネットワーク」に加入し、さらに2002年に「グリーン購入取り組み基準」を制定して、環境負荷の少ない製品やサービスを優先して購入するグリーン購入への取り組みを促進しています。

### グリーン購入の促進

グリーン購入適合品比率は「95.0%以上」という目標に対して「93.0%」と目標未達でした。ペーパーレス化により、適合品比率の高い事務用紙の購入量が減少したことや省エネ型蛍光灯への切り替えが概ね完了し、グリーン購入対象品の購入が減少したことが影響しています。

文房具の中には、グリーン購入に該当する物品が存在しないものがあり、適合品比率を上げることは難しい状況ですが、購買品、調達先の見直しにより適合品比率を改善していきます。

### グリーン購入比率

(%)

	2005	2006	2007	2008	2009
紙類	88	95	95	93	95
文具類	56	63	68	69	65
機器類	88	100	99	98	99
OA機器	100	100	99	100	100
照明 照明器具	99	100	100	100	100
照明 蛍光灯	63	71	100	98	92
合計	90	92	93	94	93

## オフィスでの取り組み

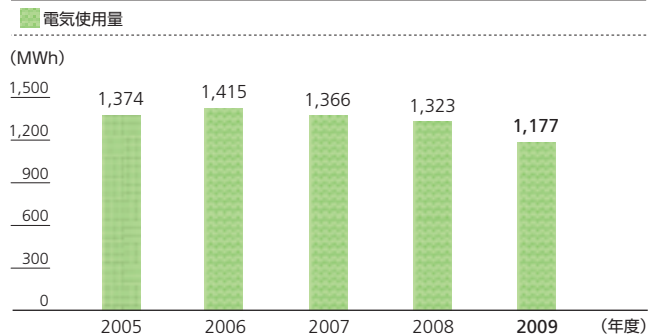
ニッケの本社、神戸本店、東京支社および北海道、仙台、名古屋、広島、九州の各営業所のオフィス部門での環境データを集計して報告しています。

### オフィスにおける環境保全

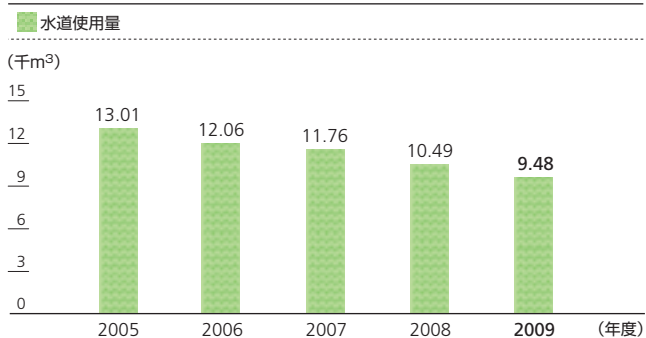
電気使用量は、空調温度の夏季28℃、冬季20℃管理を徹底することにより電力を削減しました。また不要照明の消灯、昼休みの消灯を社員に周知徹底することで、照明電力も削減できました。さらに本社ビルの通路にLED照明器具を設置し省エネを図りました。その結果、前年度比11%削減することができました。

今後は、空調設備を計画的に更新していくとともに、LED照明器具の導入を進めて、オフィス部門の環境保全対策を推進していきます。

### オフィスでの電気使用量



### オフィスでの水道使用量



水道使用量は、特に各個人の使い方大きく変動するため、節水PRを繰り返すことで、前年度比10%削減することができました。

### オフィスでのガス使用量



ガス使用量は、引き続き食堂部門での調理方法を工夫することで、前年度比19%削減することができました。



# ショッピングセンター事業における環境保全活動

## ショッピングセンター運営での取り組み

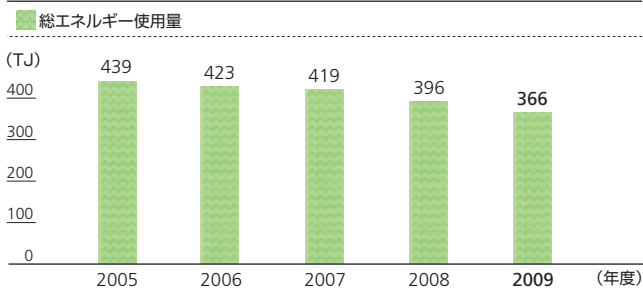
ニッケは国内2カ所で大規模なショッピングセンターを運営しています。地域の皆様に憩いの場を提供し、人々の交流を深めるとともに、地球環境にやさしいショッピングセンターをめざし、設備の改善にも努めています。

### ショッピングセンターでの環境保全

省エネルギーのために、冷温水発生機の高効率機器への更新、空調機用ファン・熱源用ポンプへのインバータ設置、日射避けフィルムや遮光幕の利用による空調エネルギーの削減などに取り組んでいます。

また夏季にはお客様の出入する主な通路にドライミストといった環境にやさしい冷房設備を設置するほか、駐車・駐輪場の緑地化や屋上散水・屋上緑化などに取り組んでいます。

### ショッピングセンターでの総エネルギー使用量



### ショッピングセンターでのCO<sub>2</sub>排出量



### 用水使用量の削減

施設内のトイレ、洗面所には節水型の機器を導入し、水使用量の削減に努めています。

### ショッピングセンターでの水使用量



### 廃棄物の削減

廃棄物置場の表示を統一し、可燃ゴミ、紙くず、廃プラスチックなどにきめ細かく分別してリサイクル量を増やし、廃棄物処分量の減量に取り組んでいます。

剪定くずによるバイオネット(木の葉や枝を積み重ねてつくる昆虫や小動物のすみか)づくりや落ち葉のコンポスト化(堆肥化)にも取り組み、手造りの庭で再利用しています。

### 憩いの環境づくり

地域の皆様の憩いの場となるように、広場にはトピアリー(樹木や低木を刈り込んで作成される造形物)や、四季咲き花木の鉢、休憩用のベンチも配置しています。

また、噴水設備からケヤキ並木に沿って流れる緩やかな小川は、丸池を経由して貯水池につながっています。流れる水は、貯水池でろ過・殺菌し循環使用しています。



ニッケパークタウン花のひろば



ニッケコルトンプラザ鎮守の杜

### 地域への情報発信

館内に設けたギャラリーでは、「環境保全」「交通安全」「防火」「省エネ」などのポスター展を開催して、地域への広報活動に努めています。

また、特別支援学校の児童生徒の社会的経験や地域との交流を目的とした「買い物学習」の場の提供などもしています。



環境月間啓発ポスター展



学童防火ポスター展

## お客様の安全確保

より安全・安心な製品を開発・製造・販売するために、ニッケグループではISO9001 マネジメントシステムに基づくPLP委員会を各部門に設置し、製品安全と品質管理体制の継続的な見直しと強化を図っています。

### 品質管理体制

ニッケグループでは、製品の製造・販売過程で、各種法律・規格・基準に合致していることを検査・検証し、製品に対して責任を持てる製造・検査プロセスと品質保証体制を確立・維持しています。

たとえばニッケ繊維製品製造部門では、資格認定者である検査員が製造の各工程で品質基準に適合しているかを検査し、最終検査品をキズ引き・格付けすることで品質を保証しています。

品質管理にあたっては、品質管理マネジメントシステムISO9001 認証を、ニッケの印南工場・岐阜工場、アンビック(株)、(株)ゴーセン 天神工場、(株)ニッケ機械製作所が取得しています。

2009年度も、お客様との定期的な品質会議や技術巡回を通じて、さらなる品質向上対策を実施しました。

### 製品安全

ニッケグループでは、「製品安全宣言」および製品安全対策要綱と同規定に基づき、製品の安全性を確保・検証するために、「ニッケグループPLP委員会」を設けるとともに、部門ごとに設置した「部門PLP委員会」が具体的な活動を推進しています。

たとえばニッケ繊維製品製造部門では、針や金属片の混入防止のために、残針管理者によるチェックや金属検知機による検査を実施し、その結果と対策をPLP委員会で毎月検証しています。

また原料については、検査結果を定期的に供給先にフィードバックし、必要であれば技術指導しています。品質への影響がある加工委託品も受入検査し、定期的に品質向上対策会議を実施するほか、薬品油脂類は継続採用品についても定期的に化学物質等安全データシートを見直し確認しています。

### ショッピングセンターでの安全確保

ショッピングセンターにご来場されるお客様への安全・安心を追求するために、段差のない館内通路とするとともにウォークスルーエレベーターを導入しています。

また、使いやすい身障者用駐車場、防犯・防災カメラやAED(自動体外式除細動器)などの設備の充実を図っています。

## 情報の適切な取り扱い

お客様の個人情報保護については「ニッケグループ個人情報保護規定」に基づいて管理を徹底するとともに、グループ内外で保有する知的財産情報も「環境・知財管理室」を中心に適切に取り扱っています。

### 「ニッケグループ個人情報保護規定」に基づき運用

ニッケグループが事業を継続する上で最も大切な資産は情報であることを認識し、個人情報の適切な取り扱いと保護が社会的責務であると考えています。ニッケグループは2005年に「ニッケグループプライバシーポリシー」と「ニッケグループ個人情報保護規定」を定めるとともに、これらに基づいた管理体制を構築することで、個人情報の適切な取り扱いができるよう管理を徹底しています。また、「ニッケグループ企業倫理ハンドブック」やコンプライアンス社内報などによって、定期的な啓蒙活動も実施しています。

なお、2009年度において、ニッケグループで個人情報漏洩などの事故は発生していません。

これからも引き続き、情報資産の重要性を認識しつつ、時代に即応した適切な個人情報管理体制の構築に努めます。

### 知的財産の尊重

ニッケでは2008年12月1日付で「環境・知財管理室」を設置しました。ニッケグループ全体が保有する知的財産の管理を統括する体制とすることで、グループが所有する特許の有効利用・防衛などに対処しています。共同研究などにおける秘密保持契約の締結や創出された発明の取り扱いなどにも対応するとともに、グループ外の知的財産の尊重も徹底するよう図っています。

また、ニッケグループでは、社員が業務に関連して創造した知的財産を「発明考案規程」に基づいて評価・処遇しています。環境・知財管理室を中心に、社員の発明報奨制度の活用を図っています。

# 社会貢献活動

## 文化・スポーツ支援活動

ニッケグループは社会に貢献する企業としての使命と責任を果たすため、スポーツ大会の協賛や、文化支援事業を開催しています。

### 「ニッケ全日本テニス選手権84th」に特別協賛

ニッケグループの事業と関連のあるテニスにおいて、その国内活動の支援をめざし、(財)日本テニス協会主催「ニッケ全日本テニス選手権第84回大会」を前年に引き続き特別協賛(冠スポンサー)しました。同大会は84回の伝統と“天皇杯”(男子シングルス)“秩父宮妃記念盾”(女子シングルス)を競う名実ともに国内最高峰のテニス大会で、2009年11月7日から15日に東京有明で開催されました。

今大会は天皇陛下在位20年記念大会でもあり、日本テニス協会名誉総裁であらせられる秋篠宮殿下と紀子妃殿下がご来場、前年に続き皇室の観戦を賜り、大会に華を添えられました。



女子シングルス表彰式

### 「第21回加古川マラソン大会」に特別協賛

ニッケは、生産拠点のある兵庫県加古川市が主催する国内有数のマラソン大会「加古川マラソン大会」に特別協賛しています。

同大会は1990年に始まり、年々参加人数が増えています。2009年12月23日に開催された第21回大会には、全国から4,664名が参加し、日本陸連公認の河川敷コースでさわやかな汗を流しました。

今後も同大会を通じて、地域社会と皆様の健康に貢献したいと考えています。



加古川マラソン大会

### 「第4回ニッケピュアハートエッセー大賞／イラスト大賞」の実施

ニッケでは、次代を担う若者を応援する文化支援事業として、2006年度から「ニッケピュアハートエッセー大賞／イラスト大賞」を実施しています。

2009年度のエッセー大賞は、「等身大のPure Heart」をテーマに「高校の部」「中学の部」の2部門で日本語エッセーを募集し、30,400作品の応募がありました。また前年度同様、予備審査で選ばれた学生と特別審査員の乙武洋匡氏とのトークセッションを開催しました。

イラスト大賞は年齢不問の企画として、エッセー大賞と同テーマでイラストを募集し、子どもから大人まで、それぞれの夢や思いを描いた心温まる4,600作品の応募がありました。

それぞれの入賞作品はニッケグループホームページに掲載し、また2010年3月には『ニッケピュアハートエッセーイラスト集Vol.4』（かんぽう発行）として出版もされます。

主催：ニッケ（日本毛織株式会社）  
後援：全国都道府県教育委員会連合会  
協力：全国官報販売協同組合



イラスト大賞 大賞作品



エッセー大賞受賞者

## 地域社会との対話

地元小学生の工場見学を受け入れるなどの取り組みを通じて、積極的に地域社会とのコミュニケーションを図っています。

### 工場見学の実施

毛織物の国内有数の産地にある愛知県の一宮工場では、20年以上前から地元小学生の工場見学を受け入れています。現在は小学3年生の社会科の副読本にも記載されており、2009年度は8校延べ1,073名の小学生が見学に来ました。

工場見学では、ビデオで工場の概要を紹介した後、羊の毛から毛

織物ができるまでの工程を案内し、ものづくりの楽しさを体験いただいています。工場見学のお土産としてお持ち帰りいただくマスコットシープも好評です。



記念品のマスコットシープ



# 働きやすい職場づくり

## 人権／雇用

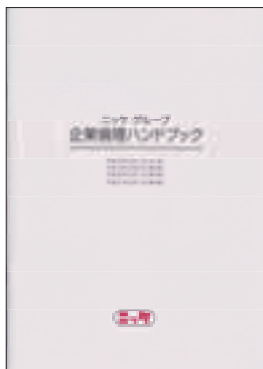
社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループをめざして、ニッケグループでは、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

### 人権の尊重

ニッケグループは安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、雇用機会均等、社員の能力開発等を図り、関係するすべての人々の人権を尊重し、差別のない明るい職場をつくります。

「ニッケグループ企業倫理ハンドブック」には、「人間の尊重」として上記を掲げ、人権を尊重した職場づくりに努めています。

2009年度は管理職を対象にした「労務管理セミナー」の中で、セクシャルハラスメント・パワーハラスメントの防止についての教育を実施し、人権の尊重を徹底しました。



企業倫理ハンドブック

### 高齢者雇用の取り組み

ニッケは、2007年度に定年年齢を60歳から65歳まで段階的に延長することを決定し、2008年4月から65歳定年制としています。

2009年度は48名の60歳到達者のうち33名が定年を延長し、6名を再雇用しました。

### 技術の伝承

技術や知識、技能の伝承は、継続的な工場運営をしていく上で基本です。ニッケでは、65歳定年制を活かして、技術の伝承を強化しており、各職場で固有のスキルを十分に引き継ぐため、熟練者による後輩社員へのマンツーマン教育などを継続的に実施しています。

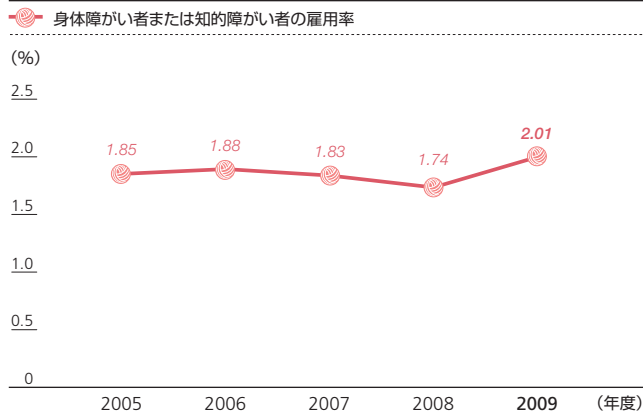
2008年12月からは、確実な技術の伝承を実行するために「テクノスクール」を開講し、「技術者教育を通じた人づくり」に取り組んでいます(7ページ「特集」参照)。

### 障がい者雇用の取り組み

ニッケは障がい者雇用率の達成・維持に努める一方、障がい者にとっても働きやすい環境を整備して、本社・工場はもとよりショッピングセンターでも活躍できる職場を提供しています。

2009年度、ニッケの障がい者雇用率は、前年度比0.27ポイントアップの2.01%と、法定雇用率の1.8%を上まわりました。今後も、障がい者の雇用に積極的に取り組みます。

### 障がい者雇用率



### 仕事と家庭の両立支援

ニッケでは、社員に対する福利厚生制度として、女性が出産や育児の時でも離職をせずに仕事を続けられるよう、法定日数・期間を上まわる「出産休暇・育児休職制度」を設けています。最近では少子高齢化に対応した子育て支援制度として社内に浸透し、2009年度は5名が出産休暇・育児休職制度を活用しました。

また、一定の介護が必要な家族がいる社員のための「介護休職制度」でも法定期間を上まわる休職期間を設けており、2009年度は1名が利用しました。

### 「出産休暇・育児休職制度」「介護休職制度」の概要

制度名	法定	ニッケでの制度内容
出産休暇	産前6週・産後8週	産前産後各8週
育児休職	1歳(一定の場合1歳6カ月)	出産休暇終了後1年 (一定の場合1歳6カ月もしくは1歳を超えた年度末まで)
介護休職	93日	勤続5年未満 6カ月 勤続5年以上 1年

## 労働安全衛生

より安全で健康に、社員が安心してイキイキと働ける職場をめざして、労使一体となって、労働環境の改善に取り組んでいます。

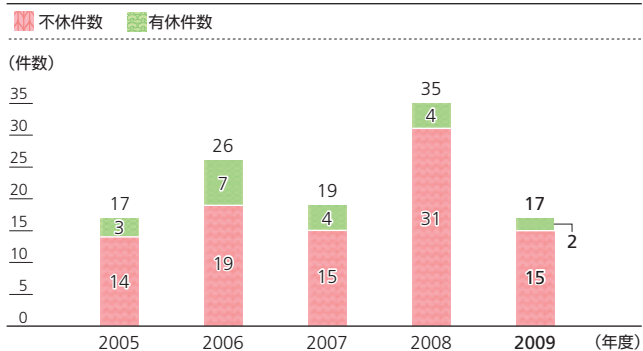
### 安全・衛生に関する取り組み

安全で衛生的な職場環境の実現は、従業員に果たすべき重要な責任であり、また製品の品質を向上させるための第一条件です。ニッケでは、年度ごとに安全衛生計画を立案し、着実に実行すべく取り組んでいます。

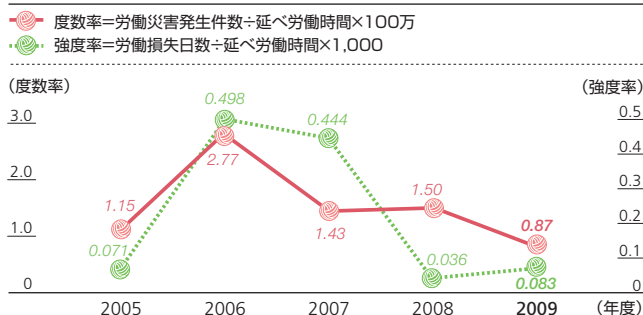
また、ニッケグループでは、グループ内で発生した労働災害の情報をすべての工場で共有することで、同様の災害を未然に防止するよう努めています。各工場で共通する主要なテーマとしては、リスクアセスメントによるリスクレベルの低減、安全意識の高揚、5Sの徹底、標準動作の見直し、危険予知活動、安全教育の徹底、交通安全教育などがあります。

2009年度、ニッケグループでの労働災害発生件数は不休件数・有休件数を合わせて17件となり、前年度の35件からおよそ半分に減少しました。これによって、度数率は前年度より改善しましたが、強度率は残念ながら若干悪化しました。労働災害が発生した職場については、安全衛生委員会が設備と意識の両面から要因を分析し、対策を講じています。今後さらに安全衛生活動の充実を図り、災害ゼロに向けて努力を続けていきます。

### 労働災害発生件数



### 度数率・強度率



### 保安防災に関する取り組み

ニッケでは毎年策定する管理計画に基づいて、保安防災に取り組んでいます。2009年度も、ニッケ各工場では近隣グループ会社と連携して、放水訓練、緊急避難訓練、消火器を使っの初期消火訓練、防火パトロール(工場内・社宅・寮)を実施しました。こうした訓練の実施内容については、社内報に掲載しグループ全社員の意識高揚を図っています。

また、自動火災報知器や消火器など消防設備の定期点検も実施しています。



初期消火訓練



放水訓練

### 心と身体の健康に関する取り組み

メタボリックシンドローム(メタボ)は、生活習慣が大きな一因であると言われています。ニッケでは、メタボにならない生活習慣の定着を図るため、2009年度に特定保健指導セミナーを3回開催しました。「メタボと判定された方」「メタボに関心のある方」「メタボを予防したい方」など受講者は延べ62名でした。

メンタルヘルス対策としては、2009年度は、新入社員を対象とした研修に加えて、管理職向け「労務管理セミナー」を開催。このセミナーの中で、部下のメンタルヘルスケアに関して研修しました。

長時間労働による健康障害防止のために、時間外労働が月80時間を超える社員については産業医の面接指導を実施しています。2009年度の対象者は延べ7名でした。

### 職場環境の改善

労働組合での対話集会で提起された職場環境の改善などに取り組んでいます。2009年度は、社員の健康増進と年次有給休暇取得率の向上のため、本人や家族の誕生日、結婚記念日などに休暇を取得する「メモリアル休暇制度」を新設し、労使で職場環境の改善に取り組んでいます。

また、定時退社日として毎月、ヘルスケアデーを設定し、強化月間である6月に労使で職場巡回しています。

# ニッケグループ各社の取り組み

## ニッケ(日本毛織株式会社)

### 本社

各階通路の照明を最新式のLED照明器具に変更し、省エネを図りました。

紙のリサイクル分別ボックスを設置し、分別意識を高めるとともにリサイクル率向上に努めました。今後



### 神戸本店

廃棄物の削減を徹底するために、地域のルールの変更についてテナントへPRしました。

また、ペットボトルのキャップやブルトップを収集して、世界の子もたちへのワクチンや車いすに交換する運動に協賛しました。



### 東京支社

不要照明の消灯やエアコンの設定温度管理などの省エネ対策に取り組みました。

また、廃棄物を分別してリサイクルするのはもちろん、コピー用紙の裏面利用、段ボールの再使用を実施して資源の有効活用に努めました。

### 北海道営業所

ペットボトル・缶・ビン・段ボールの分別とリサイクル、無駄なコピーの削減など、資源保全対策を実施しました。

また、事務所照明の本数を減らし、必要箇所のみ点灯するなど、省エネ対策に取り組みました。

### 仙台営業所

コピー用紙は再生紙を購入するとともに、無駄なコピーの削減に努めています。営業所内で使用するコピー用紙は裏面も有効利用しています。

昼の休憩時間は消灯し、冷暖房も温度管理を徹底しながら省エネに努めています。

ゴミは分別ボックスで収集しています。



### 名古屋営業所

新聞・段ボール・雑誌・ペットボトル・缶・シュレッダーくずは、名古屋市の回収ルールに則ってリサイクルしました。コピー用紙の再生紙使用、社内用コピーの裏面利用のほか、無駄なコピーを排除し、印刷枚数を削減しました。

また、エアコンの温度管理の徹底、不使用時の消灯にも取り組みました。

### 広島営業所

広島市の環境対策に準拠して事業系ゴミの分別回収に徹底して取り組みました。

また、外気を取り入れたり室温をこまめに調整することや、必要箇所以外の消灯、営業車のエコドライブとアイドリングストップを実践しました。これらの省エネ対策の結果、電気使用量は2008年度比16%の削減を達成しました。

さらに前年度に引き続き環境省が実施する「CO<sub>2</sub>削減／ライトダウンキャンペーン」に参加し、ポスターとステッカーを掲示することでPRに努めました。

### 九州営業所

コピー用紙の裏面利用、コピー枚数の削減、室温管理、不使用時の消灯などに取り組んだほか、ペットボトル・缶・ビン・新聞・段ボールは地域の回収ルールに則って分別・リサイクルしました。

また、2009年1月から省エネタイプの複合機を導入しています。

### 印南工場

【ユニフォーム素材・カーペットの製造】

ISO14001 認証取得 / 2000年11月  
(登録番号 JMAQA-E156)

織機の運転条件の変更や、熱湯を使用する連続煮絨機の放熱防止、省エネ型変圧器(アモルファス変圧器)への更新などを実施して省エネを図りました。

また、排水の水質を維持するために、活性汚泥処理装置の老朽箇所を更新しました。



活性汚泥処理装置

### 一宮工場

【メンズ・レディースファッション素材を中心に製造】

ISO14001 認証取得 / 2007年12月  
(登録番号 JMAQA-E724)

一宮工場では環境保全の取り組みとしてエネルギーの使用量削減、PRTR該当物質の削減、廃棄物の削減などに取り組んでいます。エネルギー使用量の削減では、廃蒸気回収装置を導入したほか、ガス吸収式冷凍機やパッケージエアコンを最新タイプへ更新し省エネを図りました。

また、廃棄物の削減ではリサイクルを促進するために外部講師を招いて講習会を開き、廃棄物のリサイクル率向上に取り組みました。



### 岐阜工場

【毛糸の製造】

ISO14001 認証取得 / 2001年10月  
(登録番号 JMAQA-E234)

生産動力削減のためスクリーコンプレッサーを2台、インバータ制御式に更新しました。また染色ボイラの運転時間を短縮し、減産体制に対応しました。

廃棄物については紡績工程での運転管理を強化し、副製品の発生量を削減しました。





## 衣料繊維事業

### ニッケコルトンプラザ

【ショッピングセンター】

廃棄物の分別・リサイクルに取り組む、廃棄物処理業者に支払う処理費用の削減に努めました。

従来は発生量にかかわらず固定料金制であった廃棄物処理費用を、2009年5月のリニューアルを機に従量料金制に変更。廃棄物置き場を見直し、分別スペースを拡大するとともに、可燃ゴミに含まれる紙類の分別・リサイクルを徹底しました。



### ニッケパークタウン

【ショッピングセンター】

空調設備のひとつである冷温水機を、ガスの使用量が従来比で38%削減できる高効率機器に更新しました。こまめな運転管理による省エネも実践しています。

また、廃棄物を削減するため、テナントに呼びかけて、細かい分別を徹底しました。

### 株式会社ナカヒロ

【衣料繊維製品および繊維資材製品の販売】

ISO14001 認証取得/2002年6月  
(登録番号 E465)

2009年度は、紙の購入量や紙くずの排出量において、目標数値である前年度比2%削減を超える好結果を残すことができました。

また、ビジネス事業部でのエコ素材・エコ製品の販売においては目標の新規5案件の獲得を達成し、資材装品事業部のノンハロゲン・ノンホルマリン製品の販売においても、前年度比28%増の大幅な伸長となりました。

### アカツキ商事株式会社

【衣料繊維製品の販売】

ISO14001 認証取得/2001年9月  
(登録番号 JSAE419)

2009年度はISO14001 認証を更新。①環境に配慮した商品の企画・販売②ユニフォーム製品の回収リサイクル③省エネルギー・廃棄物の削減④グリーン購入を推進しています。

省エネルギー活動としては、エアコン温度設定を2℃改善(冷房28℃、暖房20℃)、ノー残業デーの拡大、休日出勤の削減、デマンド対策として「電力の見える化」を導入しました。

### 佐藤産業株式会社

【衣料繊維製品の製造・販売】

ISO14001 認証取得/2001年11月  
(登録番号 JE0129C)

2009年度は、活動の重点を個々の数値目標を達成するほか、営業活動の中でも環境への配慮を実践するよう努めました。たとえば、地球にやさしい天然素材であるウールのユニフォームの販売を拡大するよう励みました。

また社内ではマイコップの使用を推奨して紙コップの使用を止め、資源の節約と廃棄物の削減に努めました。さらに空調の稼働時間を10%短縮し、消費電力の低減に取り組んでいます。

### 大成毛織株式会社

【織物の製造】

省エネの基本に立ち返り、スイッチをこまめに切る運動を展開しました。その結果、減産体制の中で電気使用量原単位の8%削減に成功しました。

また、美化運動として全員参加のゴミ拾い運動、除草運動を続けています。

### 株式会社中日毛織

【織物の製造】

省エネ対策として事務所の不要照明の消灯、空調温度管理の徹底、コピー用紙の裏面利用、ゴミの減量化と分別仕分けの徹底、社有車の利用節減などに全社員が取り組みました。

### 尾州ウール株式会社

【毛糸の製造】

2009年度は、CO<sub>2</sub>排出量の削減に重点を置きました。老朽化したパッケージボイラ3基を更新し、重油から天然ガスに燃料転換することでCO<sub>2</sub>の排出量削減を図りました。

また、近隣の生活環境保全にも配慮し、正門両側の老朽化した塀(スレート&タン)約100メートルをガルバ鋼材で張替え、一部ペンキの塗り替えを実施して美観の向上を図りました。



天然ガス式ボイラ

### 日誠毛織株式会社

【毛糸の製造】

2009年度は、前年度に引き続き緑化活動に取り組みました。前年度に植えた「亀のヒゲ」(ゆり科の常緑植物)の雑草対策の効果ははてきめんで、今年度は緑化の範囲を広げました。

事務所では、書類の電子化、コピー用紙の裏面利用によって、紙使用量削減に努めました。今後は事務所だけでなく、各部署でも同様の取り組みを進めます。

### 揖斐ウール株式会社

【毛糸の製造】

省エネ対策としては、生産状況に応じて停止中の機台の照明をこまめに消灯しました。また、糸蒸し作業におけるボイラの運転効率を向上させるため、作業を集中化してA重油使用量の削減に努めました。

さらに廃棄物対策として、古紙・古段ボール・ゴミなどの排出量削減に努め、社員全員で分別回収に取り組みました。

### 金屋ニット株式会社

【ニット製品の製造・販売】

2007年12月に熱効率を高めるため10年ほど使用していたボイラを更新。A重油の年間使用量は2007年度の22.4kℓに対して2009年度は17.1kℓとなり、CO<sub>2</sub>削減に大きく貢献しました。また、2006年度から継続的に、生産に伴う編地の裁断くずを自動車資材として再利用業者に提供しています(年間約11トン)。

また、全社員で節水・節電(昼休み消灯・空調温度管理)などに取り組んでいます。

## 衣料繊維事業

### マルワイ吉田株式会社

【衣料繊維製品の販売】

部門統合によって増加した配送物を送り先別に集約し、本社や一宮工場へは支社からの自営便を利用するなどして、配送によるCO<sub>2</sub>排出を抑制するよう社員一丸となって取り組みました。

不要照明の消灯とゴミの分別は継続して徹底しています。

### 株式会社キューテック

【繊維製品の縫製加工】

CAM(自動裁断機)による裁断時に生地を固定するポリエステルフィルムの厚さを半分にして、年間使用量を18kgから9kgに半減しました。製品送り用段ボールケースを削減するため、従来は内箱と外箱で二重に梱包していたのを、内箱を頑丈にすることで外箱をなくしました。

また、電力使用量の削減に努め、8カ月間の使用量を前年度比13.5%削減しました。

### 有限会社ニッケ一宮サービス

【倉庫管理・運送】

省エネ活動としては、夏場の空調設定温度を28℃とし、管理を強化することで、徹底することができました。

また、運輸部門ではトラックの燃費向上のために急発進・急停止をしないよう指導するとともに、教育資料「エコドライブ10のすすめ」を用いて定期的に社員教育を実施しました。

### 日毛(上海)貿易有限公司(SNK)

【中国国内をはじめとする海外向け毛糸・織物の販売】

社員の健康管理のため、事務所内は全面禁煙とし、継続的に実施中です。

また日常業務においては、コピー用紙の裏面利用と使用枚数削減によって、資源保全と廃棄物削減に努めました。さらに、会議ではコピーを配布する数を減らして、ホワイトボードを活用するよう努めました。

これらのほか、不要照明の消灯にも取り組んでいます。

### 青島日毛紡織有限公司(QNK)

【毛糸の製造】

ISO14001認証取得/2008年12月(登録番号 U06608E0220R0S)

ボイラを従来の重油式から燃焼効率のよい天然ガス式に更新しました。また、食堂設備も天然ガス式に切り替えました。

これらによって58万円/年という大幅な燃料費の削減ができました。さらに、排ガスが抑制され、屋外重油タンクが撤去できたことから、周辺地域の環境改善にもつながりました。



天然ガス式ボイラ

### 江陰日毛紡績有限公司(JNS)

【毛糸の製造・販売】

夏季の冷凍機使用における温度管理を徹底しました。その結果、蒸気使用量原単位を前年度の1.98t/tから1.56t/tへと削減しました。

2009年度は、江陰日毛印染有限公司(JND)との合同で環境専門委員会を設置し、環境への組織的な取り組みを開始しました。2010年度から月度活動計画を作成し、計画的に取り組んでいきます。

### 江陰日毛印染有限公司(JND)

【色トップの製造】

染色・再洗機において水洗方法を変更し、水使用量を削減しました。染色方法を改良することで染色時間を短縮し、省エネに努めています。

### 青島日毛織物有限公司(QNF)

【織物の製造加工】

段ボール、使用済み薬品ケース、糸くず・生地断片、使用済み紙類のリサイクルに努めました。またコピー用紙の裏面利用、工場周辺の緑化にも取り組んでいます。

省エネ対策としては、製造現場・事務所・トイレの不使用时の消灯、蛍光灯の省エネタイプへの切り替えを実施しました。

### NIKKE PORT PHILLIP SCOURING PTY., LTD.(NPS)

【原料加工】

洗毛すぎ槽からの直接排水をリサイクルし、これまで使用してこなかった他洗毛槽へも供給するようにして、トータル水使用量を削減しました。その結果、排水のリサイクル率は給水量の約7割に達しました。

## 資材事業

### アンビック株式会社

【繊維資材製品の製造・販売】

ISO14001認証取得/2001年11月(登録番号 JQA-EM1898)

省エネ対策として、工場内で蒸気をエリアごとに分割して効率良く使用できるよう蒸気配管経路を見直し、自動弁を追加することで放熱などの不要なエネルギー削減に努めました。また、染色時の染液濃度を見直し、排水量を削減しました。

2009年度は汚染予防を目的としてトルエンを含有する樹脂、助剤の削減にも努めたほか、環境浄化に貢献するフィルター用不織布、再生PET使用の環境配慮型不織布の開発・販売を積極的に推進しました。



蒸気送蒸用自動弁

### 日本フェルト工業株式会社

【繊維資材製品の加工】

空調用ガスヒートポンプの使用を低減するために、室内温度の設定を見直しました。また、夏季は涼しいタイプ、冬季は暖かいタイプの作業着の着用を推奨することで、ガス使用量を前年度比38.3%削減しました。

廃棄物発生量の低減を図るために、一般廃棄物の分別回収と端材・くずの確実な分別回収を推進しました。さらにウール100%を回収し業者に引き取ってもらうことによって、廃棄物発生量は前年度比22.3%削減しました。



ウール100%回収状況

## エンジニアリング事業

### 株式会社ゴーセン

【テニス・バドミントンラケット、釣糸、産業資材の製造・販売】

ISO14001 認証取得/2005年4月  
(登録番号 JQA-EM4701)

工場内の排水路に油分分離槽を2カ所新設し、地震や事故によるA重油の河川への漏洩防止対策を強化しました。また、工場内の上水道配管の老朽化に伴う漏水対策を実施し、上水使用量を削減しました。

省エネ対策としては、常夜灯をLED照明に、老朽化した蛍光灯を省エネタイプに順次切り替えています。



油分分離槽

### ホクレン株式会社

【繊維資材の染色加工】

2009年3月にボイラを更新し、燃焼効率アップとCO<sub>2</sub>削減を実現しました。

紙使用量削減は前年度から継続し、裏面利用に努めています。また、排水処理水を年3回分析し、異常の有無を確認しています。

繊維くずはリサイクル業者に委託し、資源保全と廃棄物削減に努めています。さらにクリーン活動として工場内外の清掃と工業団地の一斉清掃(年2回)に参加しています。

### 江陰安碧克特種紡織品有限公司(JAF)

【繊維資材製品の製造加工】

前年度、製造工程の照明を効率化するため、天井125m<sup>2</sup>の素材に光沢のあるアクリル板を採用して電灯の追加なしに照度をアップさせ、節電とともに製品検査の精度向上につなげました。この成果を受けて、2009年10月にはさらに530m<sup>2</sup>の天井にアクリル板を採用しました。



製造工程の天井

### 安碧克(香港)有限公司

【繊維資材製品の販売】

2009年度は、コピー用紙の裏面利用や無駄なコピーの排除などの資源保全対策と、事務所の不要照明の消灯や空調管理の徹底などの省エネ対策に取り組みました。

### 上海高織製紐有限公司

【繊維資材製品の製造】

ISO14001 認証取得/2004年3月  
(登録番号 01 104 031654)

コピー用紙の裏面利用や、不要な時の工場内の全面消灯を継続しました。

また、原糸くずのリサイクル化にも努めました。

### 株式会社ニッケ機械製作所

【機械設計・製造・販売】

ISO14001 認証取得/2004年11月  
(登録番号 162023)

当社はISO14001 認証取得しており、法令遵守などに留意しつつ日々活動しています。

2009年度は、不要照明の消灯、エアコン温度管理の徹底などによ

### 株式会社システム開発\*

【機械設計・製造・販売】

前年度に分別収集を「PPC用紙」「雑誌・カタログ」「段ボール」に拡大し、2009年度は、その分別収集に特に力を入れて実施しました。

### 株式会社テクシオ\*

【電子・電気計測器、制御装置の設計・製造・販売】

ISO14001 認証取得/2005年2月  
(登録番号 ECO4J0460)

当社は、ISO14001の運用システムに則り、電気使用量や廃棄物排出量の削減に取り組みました。

また省エネ関連製品の開発に取り組んでいます。

\*2009年12月1日に、(株)システム開発と(株)テクシオは、エンジニアリング事業再編に伴い、(株)ニッケテクノシステムとして生まれ変わりました。思いも新たに、環境保全活動に取り組んでいきます。

### 徳士計測儀器(香港)有限公司

【電子・電気計測器、制御装置の設計・製造・販売】

不要照明の消灯、エアコン温度の管理による電気使用量の最少化による省エネに取り組みました。コピー用紙の裏面利用による紙使用量の最少化、社外封筒の再利用、電子コピーの利用による省資源に取り組みました。

また、製品を運搬する際に、プラスチック製でなく自然素材の布バックを使用したり、政府が実施しているプリンターカートリッジのリサイクル活動に参加するなどの活動に取り組みました。

### 徳士計測儀器(深圳)有限公司

【電子・電気計測器、制御装置の設計・製造・販売】

不要な照明の消灯、エアコン温度管理の徹底による電気使用量の削減、コピー用紙の裏面利用、社外封筒の再利用、電子コピーの利用、運搬の際の布バック使用などを推進しました。



## 開発事業

### ニッケ不動産株式会社

【住宅などの建設・販売、不動産管理事業】

廃棄物の削減では、地域のルールに従いながら、コピー用紙裏面の利用、紙類の分別排出に努めました。

空調管理は「チームマイナス6%」に準じながら、空調機器フィルター清掃による効率維持に努めました。

### 株式会社ニッケコルトンサービス

【ゴルフ・スポーツ施設運営・管理】

社員の日課となっている毎朝の清掃作業では、落ち葉は肥料に、芝カスは堆肥として芝に戻し、化学肥料の使用を抑えて廃棄物の減量に努めました。

2009年度は「花壇」づくりに取り組み、女性のお客様にご好評いただいた結果、お客様の女性比率が12.5%と前年度よりも3ポイントアップしました。



## コミュニティサービス事業

### 株式会社ニッケレジャーサービス

【ゴルフ施設運営・管理】

ゴルフコース全体で、枯れ葉や折れ枝、ゴミの収集とともに排水マス、側溝の清掃を実施。美観の向上はもちろんのこと、排水機能が向上し節水につながりました。また、ゴミの分別に努めた結果、生ゴミなどの排出量が抑制されました。

さらに全事業所に、電気の使用量を監視するERIA（デマンド制御）モニターを設置。一定数値を保つことで契約電気料のコストダウンに成功しました。コースの照明交換時には、省エネタイプを順次導入しています。

このほか、一宮ゴルフセンター、土山ゴルフコースでは倒れた樹木や剪定した枝のチップ化に取り組みました。

### 株式会社ニッケインドアテニス

【テニス施設運営・管理】

電力使用量・使用状況を監視するシステムを導入し、節電に努めた結果、運営するテニススクール7校トータルで電力使用量を7.1%削減しました。

また、焼却時に発生するCO<sub>2</sub>の削減とポリオワクチン購入につながるエコキャップ（ペットボトルのキャップ回収）活動では、これまでに約20,000個を回収しました。

さらに、内部文書にコピー用紙の裏面利用を進め、資源の節約に努めています。

### 株式会社ニッケ・ケアサービス

【介護事業】

5カ所の介護事業所でコージェネ（熱電併給）を設置し、冬場の床暖房などで大きな威力を発揮しています。

また加古川給食センターで廃油リサイクル（天ぷら油）を実施しました。さらに、不要照明の消灯を徹底し、コピー用紙の裏面利用を積極的に実施しました。

### 株式会社ジーシーシー

【携帯電話販売】

不要となった携帯電話機の回収・リサイクルや、紙資源の節約などに注力してきました。たとえば、書類のスキャナ取り込みによる電子化保存などを推進しています。

### ニッケアウデオSAD株式会社

【菓子小売】

事業を拡大する中で、各店舗のある地域のさまざまな特性を考慮し、身の丈にあった環境活動を実施しました。

### 株式会社ニッケ・アミューズメント

【飲食・カラオケ施設運営・管理】

居酒屋「鶏口午後」では、繰り返し使用できる塗箸を導入しています。

プライベートでも、マイバッグ持参運動をアルバイト社員含む全スタッフに拡大して、明るく楽しく長続きするエコ活動の推進に努めました。



## 生活流通事業

### ニッケ商事株式会社

【毛布・寝装用品の製造・販売、手編糸・スーツの販売】

事務所内照明の必要箇所のみの点灯や、コピー用紙の裏面利用に全社員が積極的に取り組みました。

営業活動においても、ギフト向け簡易包装型パッケージを百貨店向けギフト商品に提案しましたが、残念ながら採用には至りませんでした。

スーツ販売では、着用済み衣料製品を下取りする期間を設定し、スーツをお買い上げのお客様から古着を回収するサービスを実施しています。

### 双洋貿易株式会社

【馬具・乗馬用品の製造・販売】

自治体が定めたゴミ分別ルールを徹底することや、不要な照明はその都度消灯するなど、着実な活動に全員で取り組みました。

### ニッケペットケア株式会社

【ペット用品の製造・販売、ペットフードの輸入販売】

前年度に引き続き営業会議資料のペーパーレス化、事務所内の不要照明の消灯、コピー用紙の裏面利用、グリーン購入対象品の優先購入などに取り組みました。

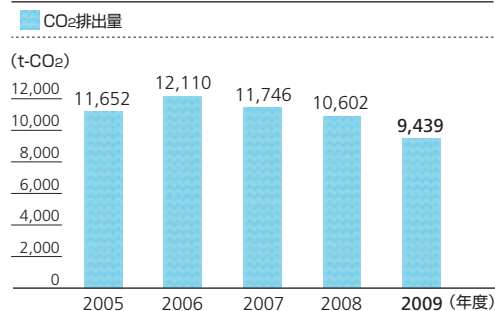
# サイト別環境パフォーマンスデータ

## 印南工場

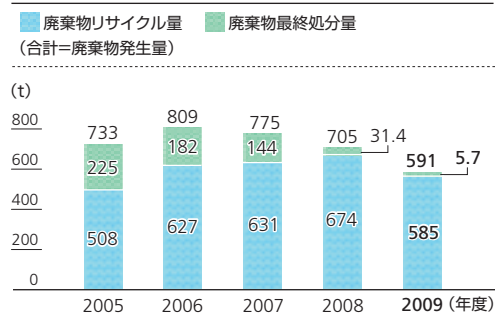
### ■ サイト別パフォーマンスデータ(5カ年推移)

	2005	2006	2007	2008	2009	前年度比	
CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> )	11,652	12,110	11,746	10,602	9,439	89%	
電気使用量(MWh)	11,834	11,801	11,233	10,823	10,112	93%	
A重油使用量(kL)	—	—	—	—	—	—	
都市ガス使用量(千m <sup>3</sup> )	3,384	3,706	3,484	3,084	2,669	87%	
プロパンガス使用量(t)	—	—	—	—	—	—	
ブタンガス使用量(千m <sup>3</sup> )	—	—	—	—	—	—	
廃棄物 発生量(t)	733	809	775	705	591	84%	
廃棄物 リサイクル量(t)	508	627	631	674	585	87%	
廃棄物 最終処分量(t)	225	182	144	31.4	5.7	18%	
用水使用量(千m <sup>3</sup> )	1,501	1,401	1,237	1,282	1,109	86%	
排水量(千m <sup>3</sup> )	1,471	1,464	1,266	1,270	1,118	88%	
排水負荷量	COD(t)	16.8	15.8	15.2	13.8	10.8	78%
	BOD(t)	5.15	4.54	5.65	4.57	4.14	90%
	SS(t)	1.47	3.95	4.48	5.97	4.92	82%
SOx排出量(t)	—	—	—	—	—	—	
NOx排出量(t)	3.11	4.50	3.43	3.77	2.47	65%	
ばいじん排出量(t)	0.155	0.083	0.303	0.721	0.031	4%	

### ■ CO<sub>2</sub>排出量



### ■ 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量

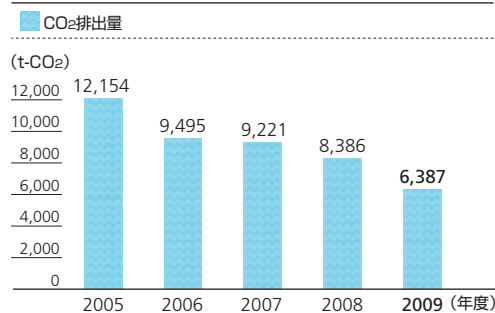


## 一宮工場

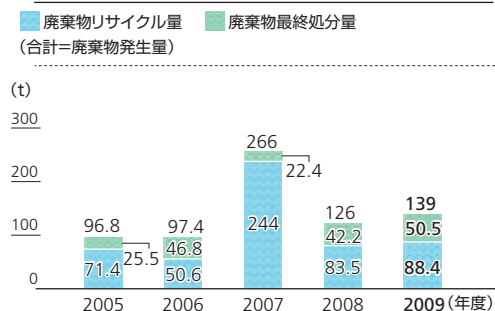
### ■ サイト別パフォーマンスデータ(5カ年推移)

	2005	2006	2007	2008	2009	前年度比	
CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> )	12,154	9,495	9,221	8,386	6,387	76%	
電気使用量(MWh)	10,766	10,216	10,470	9,804	7,372	75%	
A重油使用量(kL)	2,573	210	—	—	—	—	
都市ガス使用量(千m <sup>3</sup> )	157	1,987	2,129	2,094	1,615	77%	
プロパンガス使用量(t)	—	—	—	—	—	—	
ブタンガス使用量(千m <sup>3</sup> )	—	—	—	—	—	—	
廃棄物 発生量(t)	96.8	97.4	266	126	139	111%	
廃棄物 リサイクル量(t)	71.4	50.6	244	83.5	88.4	106%	
廃棄物 最終処分量(t)	25.5	46.8	22.4	42.2	50.5	120%	
用水使用量(千m <sup>3</sup> )	530	507	494	549	399	73%	
排水量(千m <sup>3</sup> )	362	365	417	436	337	77%	
排水負荷量	COD(t)	10.5	12.7	14.3	12.7	9.2	72%
	BOD(t)	2.50	2.49	2.16	2.41	1.41	59%
	SS(t)	1.10	0.81	0.89	0.36	0.49	136%
SOx排出量(t)	3.82	0.63	—	—	—	—	
NOx排出量(t)	7.34	1.79	1.20	1.03	0.97	94%	
ばいじん排出量(t)	0.209	0.229	0.148	0.150	0.138	92%	

### ■ CO<sub>2</sub>排出量



### ■ 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量

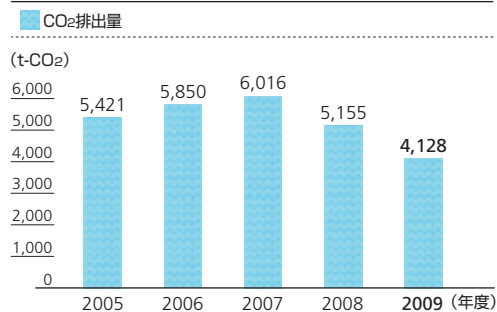


## サイト別環境パフォーマンスデータ

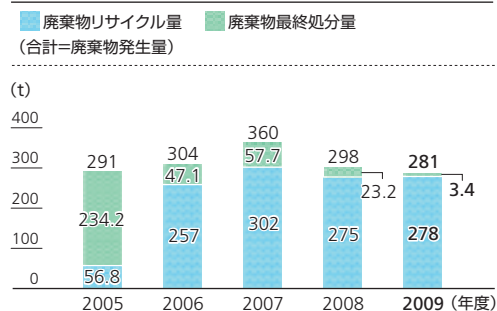
## 岐阜工場

## ■ サイト別パフォーマンスデータ(5カ年推移)

	2005	2006	2007	2008	2009	前年度比	
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	5,421	5,850	6,016	5,155	<b>4,128</b>	80%	
電気使用量 (MWh)	8,706	9,053	9,593	8,799	<b>7,627</b>	87%	
A重油使用量 (kL)	508	512	517	489	<b>50.5</b>	10%	
都市ガス使用量 (千m <sup>3</sup> )	6.01	6.25	7.16	6.32	<b>328</b>	5,195%	
プロパンガス使用量 (t)	0.984	0.850	0.810	0.500	<b>0.570</b>	114%	
ブタンガス使用量 (千m <sup>3</sup> )	13.6	13.4	12.8	12.2	<b>13.3</b>	109%	
廃棄物 発生量 (t)	291	304	360	298	<b>281</b>	94%	
廃棄物 リサイクル量 (t)	56.8	257	302	275	<b>278</b>	101%	
廃棄物 最終処分量 (t)	234.2	47.1	57.7	23.2	<b>3.4</b>	15%	
用水使用量 (千m <sup>3</sup> )	783	888	933	859	<b>802</b>	93%	
排水量 (千m <sup>3</sup> )	771	874	917	846	<b>789</b>	93%	
排水負荷量	COD (t)	7.78	11.04	9.78	11.47	<b>11.16</b>	97%
	BOD (t)	10.1	9.6	11.2	10.5	<b>9.4</b>	90%
	SS (t)	3.80	6.05	5.74	6.55	<b>6.52</b>	100%
SO <sub>x</sub> 排出量 (t)	0.835	0.711	0.581	0.580	<b>0.071</b>	12%	
NO <sub>x</sub> 排出量 (t)	0.700	0.570	0.640	0.460	<b>0.299</b>	65%	
ばいじん排出量 (t)	0.031	0.021	0.022	0.019	<b>0.002</b>	10%	

■ CO<sub>2</sub>排出量

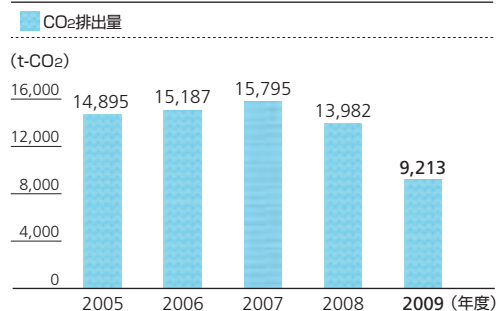
## ■ 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



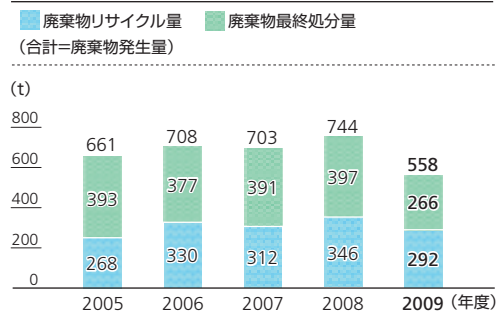
## 報告対象グループ会社\*

## ■ サイト別パフォーマンスデータ(5カ年推移)

	2005	2006	2007	2008	2009	前年度比	
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	14,895	15,187	15,795	13,982	<b>9,213</b>	66%	
電気使用量 (MWh)	20,945	20,764	21,991	20,808	<b>13,708</b>	66%	
A重油使用量 (kL)	690	681	647	461	<b>158</b>	34%	
都市ガス使用量 (千m <sup>3</sup> )	1,987	2,135	2,143	2,078	<b>1,577</b>	76%	
プロパンガス使用量 (t)	2.01	2.07	1.78	1.55	<b>1.58</b>	102%	
ブタンガス使用量 (千m <sup>3</sup> )	—	—	—	—	—	—	
廃棄物 発生量 (t)	661	708	703	744	<b>558</b>	75%	
廃棄物 リサイクル量 (t)	268	330	312	346	<b>292</b>	84%	
廃棄物 最終処分量 (t)	393	377	391	397	<b>266</b>	67%	
用水使用量 (千m <sup>3</sup> )	550	535	541	458	<b>397</b>	87%	
排水量 (千m <sup>3</sup> )	505	543	524	417	<b>267</b>	64%	
排水負荷量	COD (t)	4.23	4.85	5.66	5.41	<b>2.98</b>	55%
	BOD (t)	0.770	0.838	0.798	0.660	<b>0.350</b>	53%
	SS (t)	2.06	2.44	1.84	1.86	<b>1.01</b>	54%
SO <sub>x</sub> 排出量 (t)	1.75	2.42	1.10	1.14	<b>0.48</b>	42%	
NO <sub>x</sub> 排出量 (t)	2.46	2.56	2.47	2.05	<b>1.40</b>	68%	
ばいじん排出量 (t)	0.277	0.197	0.174	0.092	<b>0.022</b>	24%	

■ CO<sub>2</sub>排出量

## ■ 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



\* 報告対象グループ会社: 弥富ウール(株)、尾州ウール(株)、日誠毛織(株)、揖斐ウール(株)、大成毛織(株)、金屋ニット(株)、アンビック(株)、(株)ゴーセン。

ただし弥富ウール(株)は、2009年度に尾州ウール(株)に合併しました。



# 環境報告ガイドライン対照表

## 環境省「環境報告ガイドライン」(2007年版)との対照表

基本的情報	該当ページ
1 経営責任者の緒言	▶ P.3
2 報告にあたっての基本的要件	▶ P.2
3 事業の概況	▶ P.1
4 環境報告の概要	▶ P.1、P.11
5 事業活動のマテリアルバランス	▶ P.11

環境マネジメント指標	該当ページ
1 環境マネジメントの状況	▶ P.9~11
2 環境に関する規制の遵守状況	▶ P.11
3 環境会計情報	▶ P.10
4 環境に配慮した投融資の状況	—
5 サプライチェーンマネジメント等の状況	—
6 グリーン購入・調達状況	▶ P.19
7 環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況	▶ P.17~18
8 環境に配慮した輸送に関する状況	▶ P.14
9 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	—
10 環境コミュニケーションの状況	▶ P.10
11 環境に関する社会貢献活動の状況	▶ P.25~29
12 環境負荷低減に資する製品・サービスの状況	▶ P.17~18

オペレーション指標	該当ページ
1 総エネルギー投入量及びその低減対策	▶ P.13~14
2 総物質投入量及びその低減対策	▶ P.12、P14
3 水資源投入量及びその低減対策	▶ P.13~14
4 事業エリア内で循環的利用を行っている物質等	▶ P.13~14
5 総製品生産量又は総商品販売量	▶ P.12
6 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	▶ P.13~14
7 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	▶ P.15~16
8 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	▶ P.15~16
9 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	▶ P.13~14
10 総排水量等及びその低減対策	▶ P.15~16

環境効率指標	該当ページ
環境配慮と経営との関連状況	—

社会パフォーマンス指標	該当ページ
<b>社会的取組の状況</b>	
① 労働安全衛生に関する情報・指標	▶ P.24
② 雇用に関する情報・指標	▶ P.23
③ 人権に関する情報・指標	▶ P.23
④ 地域及び社会に対する貢献に関する情報・指標	▶ P.22
⑤ 企業統治(コーポレートガバナンス)・企業倫理・コンプライアンス及び公正取引に関する情報・指標	▶ P.4
⑥ 個人情報保護に関する情報・指標	▶ P.21
⑦ 広範な消費者保護及び製品安全に関する情報・指標	▶ P.21
⑧ 企業の社会的側面に関する経済的情報・指標	—
⑨ その他の社会的項目に関する情報・指標	▶ P.21

## 編集後記

「ニッケグループ環境報告書2010」をお読みいただきありがとうございます。

今回の報告では、皆様にニッケグループの環境と社会への取り組みを詳しく知っていただくために、特集として「各拠点における環境保全活動」と「技術・技能の継承」を取り上げました。今回から詳細なデータをWeb版で紹介す

ることになり、より詳しく実績報告やデータ分析を掲載することができました。今回は編集メンバーの交代や報告内容の増加があり、編集に苦勞する日々が続きました。

まだまだ内容は不十分ですが、皆様からのご意見、ご指摘を参考にしながら、より一層わかりやすく充実した報告書にしていきたいと考えています。



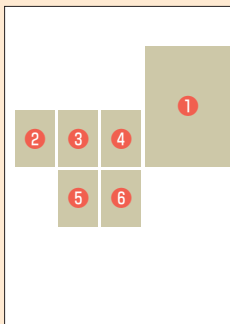
〒541-0048 大阪市中央区瓦町三丁目3番10号  
Tel.06-6205-6600 Fax.06-6205-6684

<http://www.nikke.co.jp>

## 表紙イラストについて

「ニッケPure Heart イラスト大賞」第4回(2009年)

次代を担う若者を応援する文化支援事業として「ニッケピュアハート イラスト大賞」を実施しています。「等身大のPure Heart」をテーマに、それぞれの夢や思い出などを描いた心温まる作品が集まりました。



### 大賞

①「道化程、  
欲するもの」  
新村 淳子さん(長崎県)

### 優秀賞

- ② 朝来野 瑠さん(大分県)
- ③ Benさん(岩手県)
- ④ 柏木 二美さん(大阪府)
- ⑤ mioさん(奈良県)
- ⑥ 島田 沙織さん(北海道)



このカタログの印刷は、環境にやさしい  
植物性大豆油インキを使用しています。



古紙配合率100%再生紙を使用